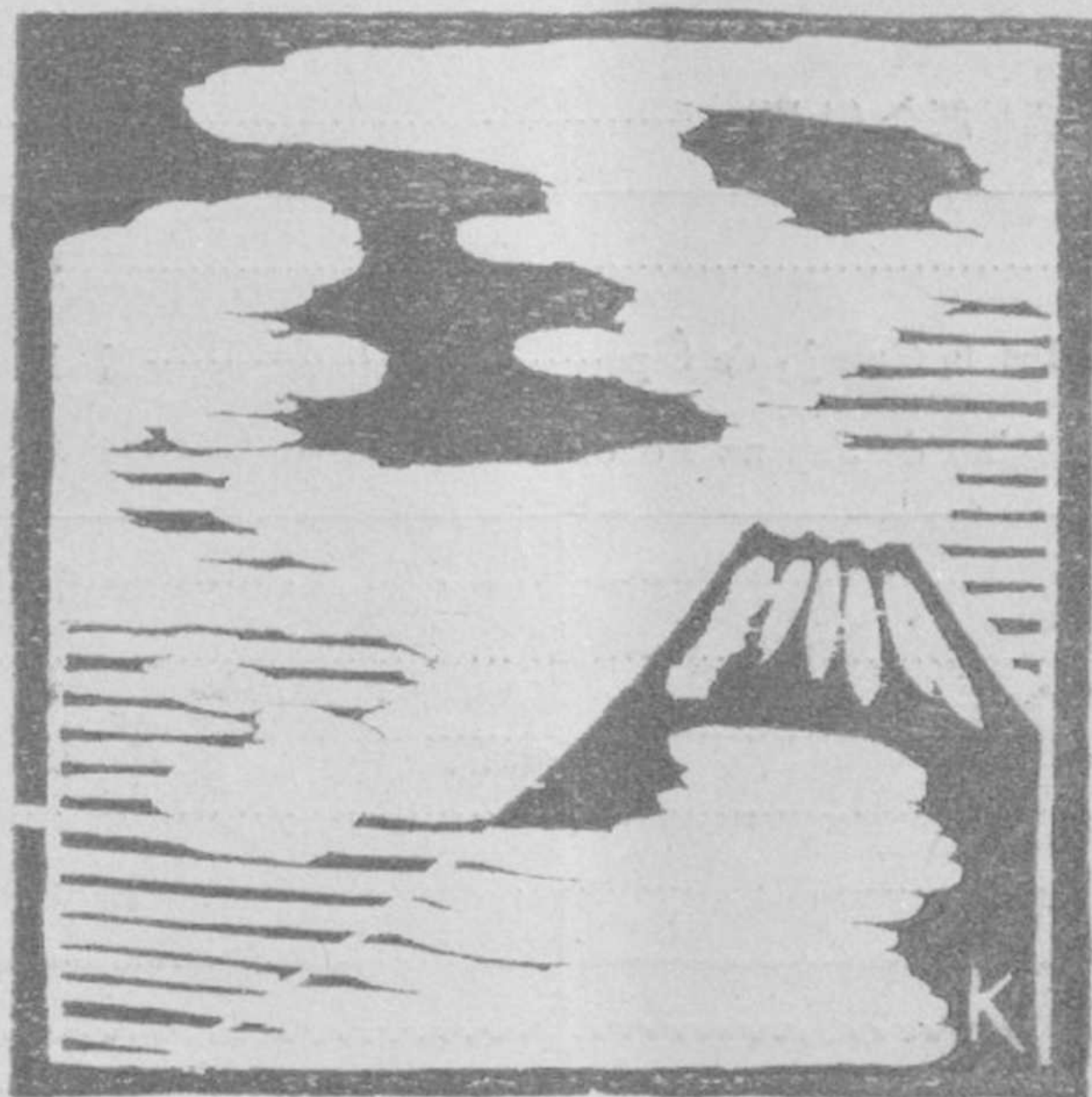


# La Revuo Orienta



JAPANA ESPERANTO-ISTITUTO

ŜIN'OGAŬAMAĈI III, UŜIGOME, TOKIO





目次	編輯者	城戸崎益敏 伊藤己酉三
細田君の死を悼む.....	伊藤己酉三	225
細田兄を憶ふ.....	大橋介二郎	225
汎歐羅巴、歐羅巴聯盟、世界合衆國.....	栗飯原 晋	227
緑の友を求めて.....	(在獨逸) 鈴木正夫	223
新刊紹介.....	大島義夫	230
地方エスベラント運動紹介(大阪).....		232
Sfinksa Paĵo.....	近藤國臣	336
通俗科學欄 Pri la Tunaĵo de Ŝipo.....	高見和平	233
Traktato pri la Origino de Japana Popolo.....	時枝誠之	240
海外報道.....	伊藤己酉三	248
内地報道.....		250
會員の聲.....		255
編輯後記.....		256
(表紙)靈 峰.....	露木清彦	

### ★ 夏期講習會 ★

初級科 8月4日(月)―28日(木)  
毎週月、木曜日(八回)  
午後7時―8時半

會費 2圓(教材共)  
講師 松本清彦氏

中級科 8月5日(火)―29日(金)  
毎週火、金曜日(八回)  
午後7時―8時半

會費 3圓(教材共)  
講師 小野田幸雄氏

——何れも學會階上講習室にて——

### ★ 中等講習會 ★

.....夏休みで休止.....

8月中はお休みです。御希望の方は夏期講習の中級科へお出で下さい。

### ★ 例會兼研究會 ★

毎水曜日午後7時より(不休)

用書: Fabeloj de Andersen (II)

[會費不用]



## 細田君の死を悼む

細田君逝く。この報知は實に思ひ掛けない事でありました。休學中にも拘らず學會へは毎日のやうに來られて色々の仕事をされ、講習を開く時には熱心に講師として指導せられ、實に我々もあの位熱心になれるならばと思つてゐました。僕が最初に識つた時は確か一昨年秋の會話會の時かと思ひます。それ以來或は學會に於て、或は會話會に於て、或は Argenta Kunveno に於て、遠足に於て、其他エスぺランチストの集る所では必ず一所に顔を合し、又時折散歩をしながら語り合つたものでした。大橋氏の書かれた通り宣傳普及の爲に身體を損はれたのでした。或は千葉に或は日本醫大に學會に講習のない時は殆んど無い位でした。我々も屢々身體の爲にもつと靜養される事を勧めましたが、相變らず東奔西走して居られました。しかし昨年7月に遂に郷里に歸られる事を聞いた時には一方には靜養を願ひつゝ、も又他方では何時までも東京に我々と共に居られる事を望まざるを得ませんでした。歸郷後もよく栞やピラを送るやうにさ申越され、それによつて尙も宣傳に努力してゐられな事を知り、その熱心さには全く敬服いたしました。今年1月丹波市より天理教外語學校にて講習をするから展覽會材料を送る

やうにこの手紙を受取りました。これが最後の手紙でした。それに對して出した手紙には遂に返事が來ませんでした。後で聞く所によると病氣の爲講習は出来なかつたこの事で、又殆んど失明せられたといふ事でした。勿論それから僅か5ヶ月の後に永眠せられるとは夢にも思ひませんでした。6月7日に父君から死去の御通知を受け我がエスぺラント界に一大打撃を受けた事を痛感しました。何時でも會に出席する時に、同志と話し合ふ時には細田君在ればその失はれた事が諦められぬ程その fervoreco と bonkoreco が強く腦裡に残つて居ります。

同君に關して最もよく思出される事は Fred Niblo を迎へに横濱へ行つた時、Argenta Kunveno で話した時、El Mirasol (喫茶店) へ一緒に出掛ける時 Gauntlett 氏に會つた事等です。交際は僅か一年に過ぎませんがその一年間に兄によつて啓發せられた事は頗る大であります。兄と共に過したこの一年は僕の Esp-ista vivo に於て最も愉快であり收穫の大なるものありませう。

拙筆ながら茲に兄の餘りに早く我々を去られた事を深く悼む次第であります。

(編輯室に於て、伊藤)

## 細田兄を憶ふ

細田君と識り合つたのは、昭和三年の春頃からだと記憶して居ます。舊學會の二階のあの薄暗い、夏は家の直ぐ前に婆婆と青桐が其の廣い葉をひろげるので一層暗くなるあの二階で、しかも忘れる事の出来ない思出多いあの二階で相識つたのが始めてでした。然し其の時分の細田君の印象は今餘り明瞭ではありません。

其年の夏から西野兄とアルヂェント會を銀座に創つてから時々逢ふ様になり、先づ其の熱心さ、エス運動の犠牲的精神に驚かされたのでした。帝大の正服正帽で毎土曜かゝさず

出席され大いに士氣を鼓舞されました。

兄が始め帝大醫科に居られ、健康の爲めに中途から農科へ移り、それも強い眼病の爲め續かず、たゞ籍丈を置いてあると云ふ様な事も段々知りました。その眼病もエスぺラントの書物を讀み過ぎたのだと云ふに至つては、敬服するより外ありませんでした。と同時に私はひどく兄の健康を氣遣ふ様になりました。必ず回復すると云ふ注射の先生へも共に行きました。其の先生の診断はこれは眼丈悪いのでは無い、身體全體から由來してゐるのだから氣永に治療せればならぬと云ふ事でした。



た。こうして一方治療に通ひ乍らも、兄の熱心は絶へず我等を刺戟して止む處を知らなかつたのでした。當時私も閑暇でしたので、一週間に一度逢ふ丈では物足りなく、間の日兄が誘の手紙をよこされた。やれ何處の學校にエス會があるから行かないかとか、神田のエルミラソルへ何時頃来いとか、云ふ事は度々でした。伊藤己酉三さんと私と三人で神田、銀座をエス語で流した事は随分屢でした。アルヂエント會で、一人一人立ち上つて parolado の練習をやつた時分に、兄の力ある parolado は常に我々を酔はしめました。

昭和四年の春、兄の親戚に當る、菊池眞一郎君が日本醫科大學の學生である因縁から、一時休止の状態にあつた同校のエス會に復活の力を與へた事は、思へば、東京に於ける兄の最後の活動であつたのでした。

同校一般の初等講習を開くに就き先づ上級生に力ある同志をつくらねばならぬと云ふ結論から、學部三年の廿名程に熱心な講習をされた。其の計畫は美事に當つて、同年の初等講習は最後迄二百名近くの者が踏み止まつたのでした。

丁度其時分だつたかと記憶しますが、米國メトロゴールドキン映畫會社の監督、フレッド・ニープロ氏——エスペランチストにして、トーキーにエス語を用いる考へを持つて居るさて世界中の同志に知れて居る——が來朝すると云ふ知らせがあつて、國際聯盟の徳田さん、當時慶應の學生たりし松本君、それに、細田兄、伊藤兄、私の五名が五時頃起きて品川で待ち合せ、横濱迄行きました。船の名は、エンプレス・オブ・エシヤだと記憶して居ますが、ヴェルダ・ステーロの旗を高く翳して入船し、方々尋れても終に見付からず、結極事務長を尋れて、名簿を調べて貰つても見當らないと云ふ仕末に少からず失望し、腹癪に都新聞の記者を掴へて、大いに船中でエス語を吹き散したなどは、兄を憶ふ毎に記憶に新たな事件であります。その歸りにも或るコーヒー店に御輿を据えて、大いにホマラニスを

論じ合つた等、今想起して、兄を失つた事の如何に我々に打撃であつたかと思はれます。あれ程の犠牲的精神と、熱を持つた同志は矢鱈にころがつては居りません。

去年の夏、突然、七月頃歸國する、と申し渡された時は、初め信する事が出来ませんでした。私はもう永久に兄とは離れまい、共に共に此の運動に及ばず乍ら盡力して見たいと思つてゐる矢先だつたからです。然し、兄の foriro は事實だつたのです。父上がお國から出て來られました。そして、九月の大會にも出席出來ずに我々の仲間から去られた。銀座の小松で、簡単な送別會を行つたのが、兄を見る最後の日だつたのでした。

兄の歸國後も二三度手紙の往復をしました。兄は常に田舎に於ても宣傳の手を休めなかつたのでした。

私が最後の手紙を出したのは今年の一月でした。そしてそれ切り六月迄何の手紙も受け取る事が出来ませんでした。菊池君の話により、兄が殆ど視力を失つた事、そして盲啞生にエス語を教授した居ると云ふ様な事を聞きました。視力を失つてからの、こうした奮闘は、確に日本エス語史に残る可き價值があると思ひます。

六月初旬、兄の訃報に接して以來、あの瘦せた顔、熱其の者を吐き出すあの唇を眼前に彷彿想起して兄の徳を偲んで居ます。

菊池君の話によると、兄は此の春東京へ出て來られて病の床に居ながらも、常にエス語を口にせられたとの事、又臨終に際しても、日本醫大のエス會の成行を心配せられた由、つい知らずして、見舞ふ事もしなかつた事を今更残念に思つて居ます。

偶、城戸崎氏より、「何か感想を」との御依頼に接し短日月の交際の同志として、餘り材料も無い爲め、取りさめもない事な書き連れて、思ひ出のよすがとも爲し、且つ責を塞ぐ次第であります。

(六月廿一日、大橋介二郎記)



# 汎歐羅巴・歐羅巴聯盟・世界合衆國

粟飯原 晋

## 53. 世界合衆國の案

日本人を母に持つオーストリアの青年貴族リヒャルト・エヌ・クーデンホーフ・カレルギ伯は1923年頃より Pan-Europa の案を主張し、ヨーロッパ政界各方面の注意を惹き、フランスでは前首相エリオ、パンルヴエ、前蔵相カイヨー、ドイツでは宰相マルクス、故外相ストレーゼマン、民主黨首領コホ、國會議長レーベ、オーストリアでは宰相ザイベル、イタリーでは前首相ニツチ、チエコスロヴァキアでは外相ベネツシュ、前商相ススタの諸氏の如き有力な政治家が公然汎ヨーロッパ主義なることを揚言するに至り、1926年秋にはウインに於て第1回汎ヨーロッパ會議が開催されヨーロッパ26ヶ國の代表者が公私の資格で参列した。

1929年9月の國際聯盟第十回總會でフランスのブリアン外相はヨーロッパ經濟聯合を唱へ、世界の輿論を喚起する處あつたが、1930年5月17日を以てブリアン外相は彼のヨーロッパ聯盟案に關する覺書を全世界に發表した。この覺書には各加盟國に對する諮問事項があり、ヨーロッパ聯盟の組織及び活動の具體的のことは未だ定まつてゐない。しかし目下ヨーロッパでは27ヶ國が各々高い關稅障壁を張り繞らしてゐるので、共仆れの憂ひがあり、ヨーロッパ聯盟は相當に實現の可能性がある。實現せる曉には、貨幣、郵便切手、爲替手形、小切手等は何れもヨーロッパ共通のものが出来るであら。そして共通語の必要も一層強く感ぜられるに違ひない。

數年前米國の某誌にミルウォキー市の或る人が世界國家聯合案を書いてゐる。それは世界の各國共同して一定の土地に、一つの世界合衆國を作るのであつて、その計畫は次の如くである。

1. 世界合衆國をパレスタインに作る。
2. 首府はエルサレム。

3. 政府は行政、司法、立法を司る。
4. 法典には民法、刑法、商法、海商法、航空法、特許法、著作權法、移民法、無電法等を含む。
5. 通信は無電、海底電信、電話、電信、郵便等を利用する。
6. 運輸は水、陸、空の三方法による。
7. 海陸交通路を規定し、運輸法典を作る。
8. 教育制度
  - A 第二國語として 에스ペ란토 を、その郷土語以外に用ふ。
  - B 度量衡はメートル法採用。
  - C 訓育として體育、植物學、農學、美術、音樂、科學、衛生、倫理、經濟、園藝、手工等を教へる。
9. 貨幣は十進法を用ふ。
10. 課税は簡單で効果の多く、公正にして經濟的な制度を選ぶ。
10. 關稅は當分の間丈け存續せしめる。
12. 勞働局—平和、繁榮、文明のため大なる恐畏である關稅廢止を促進する。
13. 衡平局—消費者の安全を計り、商工業の發展と勞働の保護をなす。
14. 調査局—醫學、化學、農學、機械學、地理學、地質學、天文學其他の研究調査をなす。
15. 技術局—衛生、電氣、灌溉、機械、通信、鑛山、運輸、道路等の技術官を置く。
16. 建築局—建築家、藝術家より成り、都市建設等に從事する。
17. 管理局—木材、礦石、石油、魚鳥、獸類、その他天然富源の地及び名所舊蹟地。
18. 統制局—藥品類、麻醉劑の製造分配、また武器、軍需品、器具類並に運送機關類等戰時使用器の製造、分配を制限或は廢止する。
19. 福利博濟局—罪罰、疫病、老衰、惡風習の除去を計る。



## 緑の友を求めて

在獨逸 鈴木正夫

僕は目的地へ着いてからゆつくり Esperanto の事にもたづさはりたいと思つたので、旅の途中では心忙しいし暇もないので餘り同志を訪れやうとも思つて居なかつた。實際印度洋を経由する船旅の途には Esperantisto も數多くは居ず、所謂緑の旅をするには都合がよくない。そんなわけで此處 Leipzig へ着く迄は餘り御智道に値する程の事をしなかつた。併し一つの例外があつて Paris では一寸した事があるし、又その他こちらから求めなくても Esperantaĵo が湧いて来る(程 Esperanto は廣まつても居る)。之等の事から御話し申して行かう。

Paris では滞在の間に一寸時間の暇が見つかつたので UEA の年鑑をひろげて Delegitojの中から Medicinisto を捜し出して出かけて行て見た。Gustave Philippet といふ人で Panthéon のすぐ前に住んで居る、非常に氣持のいいお爺さんで(そんな年ではないが)快よく會てくれて種々話したか、丁度今 Aŭstro が一人自分の處へ來てるから今日晝飯を一緒に食はうと云ふ、こちらで少し面食たが早速引受けて晝頃出直して行た。この Aŭstro といふのは未だ年は若い學生風の Esperantisto で Paris を見物に來て居るのだが別に Philippet と前からの知人でもまして親類でもないらしい。こちらではかういふ風に Esperantisto 同志がお互に世話になり合つて種々の便益を得て居るものらしい。この晝食は突然であつただけ、そして見知らぬ異國の旅の初頭に起つただけ一層僕には嬉しく Esperanto と國際的の友誼の有難さが感ぜられたのだつた。

Philippet の話では丁度その翌日の晩 Paris の同志の毎週の會があるといふので、出席を約束して翌日定刻に同氏の宅へ行た。會合はすぐ近所である所の Sorbonne 大學の理科の講堂にあるのだつた。Philippet や Aŭstro や Philippet の子供(之はやはり Paris の delegito—studenta—をしてる)などその會へ行たらもう大部集て開かれて居た。大凡 3-40 人は居る、その中半分ほどは婦人である。若い人は反て餘り多くない。一人の大部年まつた人が演壇に出て幹事の讀む小説を片づけしかる譯する練習をしてる、皆が少しづつ夫を批評したり直したりする。しばらくして外の人

が又かはりに出てくるといふ始末。とにかく年老つた人もかうやつて勉強を怠らないのは感心の至りである。その後である人(名は忘れた)の Jupitero に關する神話の短い講演(勿論 Esperanto)があり、其後で僕と Aŭstro が一寸挨拶をして散會。後で皆が Kafejo に席をかへてビールをのんで大部話し込んだ。この毎週の會に於て有名な Th. Cart 氏に會へたのは僕の思はぬ喜びだつた。すべての點に於て故中村博士を思ひ出させる態度である。又いま Paris に滞在してる斯界の猛將 Grenkamp と快談し得たのも面白かつた。彼は丁度その直き前に著いた Revuo Orienta の中に彼からの Parolanta letero の事が出て居るのを示して喜んで居た。彼の話に依る一語 [via 何さか lando] 以外完全に傳はつてゐる事の事であつた。

Paris で買つた albumo を後でゆつくり見ると Esperanto の説明がついてるので嬉しくなつた。英佛獨伊などと並べてはあるのだがかういふ市販の事物に迄入てる事は今は未だ喜びを與へてくれる。Th. Cook の全歐時間表(汽車)の後に英佛獨伊などの會話が少し書いてあるが夫にも Esperanto が入てる。Berlin で Potsdam へ行かうと思つて Potsdam 停車場へ行た時、僕の胸の緑星章を見て Esperanto で話をしかけて來た青年があつた。Leipzig で僕が今下宿してる處へ室を見に來たらその子供が矢張り Esperanto で話をし出した。こんなわけで、この調子でぶつかる程度には Esperantistoj が居る事はかなり心強い事と思ふ。Esperantisto でない人にはかういふ事は視察の目を逸すのだから、彼等の歸朝談といふものが幅を利かす日本では見當違ひの議論が生れる事となるのである。

Leipzig へ著いて暫らくして Hirt u. Sohn へ行て Sro. B. Kötz を訪れた。之がこの出版屋さんの主人である。(とても蟹屋などは比較にならぬ)大きな出版屋だが Kötz 自身も熱心な Esperantisto で gastama な人である。Esp-isto の Sekretariino を使て事務をさつてる。そのすぐ近くの Johannes Platz に面して Esp-Instituto de l' tuta Germanujo がある。之處に毎日老將 Pro. Dietterle が午後には事務をこりに來る。朝から夕方迄かなり年まつた Fraŭlino Wunderlich が事務を採て



る。この Instituto なるものは會員なるものを有せず雑誌を發行せず、たゞ全ドイツの各種各派の Esp. 運動を中央に立つて全く neŭtrala な立場で括めて行く中心である。その長が Dietterle なのである。Dietterle は眞面目なお老爺さんだ。こはい顔をしてるが、そのこはい顔のまゝで時折冗談を云たりして面白い老人だ。午前は家で午後は Instituto で仕事をやるのだ相だが、それが皆 Esperanto の仕事だ相だがよくそんなに仕事があるものだと思ふ。この會員も會費もない Instituto が Leipzig の町の繁華の中心の近くに大きな事務所をもつてよくやつて行けると思ふが、聞く所に依ると、今迄の政府の補助金が大部削減されて弱つてるといふ事である。そんなわけで Instituto といふものは一つの中心機關だが、たゞそれだけで Dietterle などは同時に Germana Esp. Asocio (中心は Berlin) に屬して居るので、僕も行く毎週の會も G. E. A. の會なのである。Dresden の大會にも G. E. A. の定會がある事日本の大會に J. E. I. の定會がある様なものである。

かういふ neŭtrala な會の外に Leipzig も左様だがその他何の都市にも SAT の團體がある。この方の事は僕も委しい事は知らぬが Leipzig などでも 500 人位はあるのだ相だがさういふ人達は別に集つたり勉強したりして G. E. A. などへは來ず又 Kongreso などへも勿論來ない。ただ Instituto は中立的に全部を總括するのだからその下に包括されるわけだ。Dietterle などに聞くと彼らは Instituto を利用はするが金を出さないと云て居た。SAT の方の活動が仲々盛だからそして SAT の中には ruĝa forto に傾く分子もあるといふ噂に従て Esperanto そのものを ruĝa と見る俗世間は Leipzig 邊りへ來てもあるといふ話だが一方警察なども Esperanto の會がある位だから、根本的な誤解があるわけではないらしい。

6月7日から10日迄 Pentekosto に際して Dresden で全ドイツ Esperantistoj の Kongreso が開かれた。近い所なので饒村君(千葉 Foliaro-Klubano) を誘つて行て見た。行く時は Kötzt と一緒に往た。丁度 Dresden では今 Higiena ekspozicio が開かれ、そのために大會も Dresden であるわけで Ekspozicio も大部 Kongreso を subteni し、大會の大部分は Ekspozicio 内の會館で行はれた。7日の夕方8時頃から Ekspozicio の Muzika salono で interamikigila kunveno があつた。廣い廣間の

周りで皆が酒や refreŝigilo をのんでまん中で皆が踊るわけだ。西洋では萬事この踊で interamikigi するものらしい。全く dancado は Esperanto 以上に internacia で interamikigilo としては非常に好適してるものらしい。僕は未だ遺憾乍らこの interamikigilo が駄目だから interbabilado だけで konatigi したわけであつた。尤もその間には Klara 會に相當する Sinjorina Societo de Dresden の餘興があつた。

9日の朝早く先達死んだ Marie Hankel の墓に花環捧呈があつて後10時半から Solena malfermo が Ekspozicio 内の Higiena Muzeo の大廣間で行はれた。列席者500人以上、先づ最初1908年に Dresden で世界大會の時に上場した Zamenhof 譯の Ifigenio の思ひ出として Ifigenio, Monologo だけの演出 (Fino Elly Reicher—Berlin) と Mozart の Trio (E-dur) の演奏があつてから型の如く議長選出 (Dro Vogt—Stuttgart) その挨拶 k.t.p. と進む。それから多くの方面の salutoparoladoj がある。ドイツの大會だから大部分はドイツ語で演説されるのだが 7-8 以上の salutoparoladoj の内 Saksa ministro の一人(たしか大藏大臣だつたと思ふが) Esperanto で相當長くやつたから感心した。その次にこの大會には珍しく外國からの參會者が多いので一人づゝ代表の挨拶があつた。Anglujo, Aŭstrio, Bulgarujo, Ĉekoslov, Finnlando, Japanujo (小生), Jugoslavnjo, Hollando, Rumanujo, といふわけで殆ど世界大會の觀があつた。次に G. E. A. の長 Behrendt 氏の Festparolado 之は直ちに Radio となつて放送されたので勿論ドイツ語だつた。

それから寫眞撮影、komuna tagmanĝo。この日及次に述べる催しなどに於て多くの同志と知り合ひになり又多くの有名な Esperantisto と話し得たのは何よりの喜びであつた。多年使ひ馴れた辭書の Dro Christaller はその内の一人である。Teo Jung は來てなかつた。日本人は珍しいので僕も饒村君も非常に人氣者だつた。皆が話に來る。葉書に名を書いてくれと云て來る。又近く Aŭstrio の大會があるとか Fervojojistoj の大會があるから是非來てくれなどと仲々うるさい位である。Heroldo に出てたさ自ら名乗たドイツ人で Bulgarino と Esp. で結婚した paro も來てた。Ĉekoslov, は Dresden からは近いので、40人近くの一團になつてやつて來た。その一團とは特に親しく行動した。さにかく國際的の友誼には特殊の感じがある。(以下次號)



# 新 刊 紹 介

大 島 義 夫

★PAROLADOJ, L. L. Zamenhof Kompilita de T. Sasaki, 11×15 cm. p. 103. 大日本エスペラント會發行、定價 30 錢。

佐々城佑氏によつて編まれたザメンホフ演説集。最近 Dietterle 博士によつて出された“Originala Verkaro”を参照した點で、かなり新しい材料が盛られてある。最初の“Gramofona parolado okaze de la unua datreveno de la fondo de la Londona Esp. Klubo,”や 1913 年の二つの演説などわ一般にわ未だ目新しいものである。Dietterle 博士によつて綿密に調査訂正された paroladoj に基づいて kompili されてあるだけによき出版物と言える。更に印刷のきれいな點と値段の随分安い點とわ現代向きだ。しかし活字の小さすぎるところがあるのわ遺憾。

★NACIISMO studo pri deveno, evoluado kaj sekvoj, originale verkita de E. Lanti, 12×19 cm. p. 124. eld. SAT Eldona fako Kooperativa, Leipzig, Germ. 1930.

かつて SAT の機關紙 Sennaciulo 誌上に半年に亘つて連載され、非常な好評を博した Lanti の民族主義論、Naciismo, Internaciismo, Sennaciismo の三部作の第一部を成すもの。

民族間に於ける naciismo, トーテム崇拜、エジプト、ローマの imperiismo から近代の naciismo に至る研究批判で、實に大きな temo. 百を超える引用書をいちいち擧げてある。著者の持つ獨特な (nebula とも言えるかもしれない)、しかし唯物的な見地からの naciismo 批判と、殊に近代の資本主義を背景として生長しつつある民族主義愛國主義をよく把えている。資本主義制度擁護の煙幕としての naciismo の曝露とよく本書に盡されている。第二部 Internaciismo 論でわ國際的接觸に於ける naciismo を、第三部 Sennaciismo 論に於いてわ、naciismo を揚棄して、新しい世界的統制を持つた經濟を前提とする世界主義を論ずる豫定だから、この Trio 完成の曉と、われわれ、地域的孤立から世界的集團への過程に於いて人類の持つた自己の社會生活單位の Ideologio を大觀することができよう。

殊に第二部、第三部に於てわ pro'eta esp-isto にしてよく把握できる研究であるだけに今からわれわれの興をそゝるこそ大である。

更に適切に無駄のない行文の流暢さわ本著者の持つ力強い特長だ。(圖書部取次定價 65 錢郵 4 錢)

★VIKTIMOJ, originale verkita de Julio Baghy, 2-a eldono 18×12 cm. 237. eld. Esperantista Asocio Laborista Budapest, Hungarujo, 1930. Esp. 創作文壇でその人ありと知られている J. Baghy の傑作“Viktimoj”の第二版。さつぱり振るわない esp. 文壇にあつて彼の存在を曉天の明星とも形容できよう。古いものわ先づ措いて、すべての esp-isto の一讀に値する新しい esp. 文學を求めるならば、何と言つても彼の長編小説“Viktimoj”を擧げなければならない。

Teo Jung の創作と一寸世俗離れたし、R. Švare の氣のきいた romano と唯單なる moderna spriteco にすぎない、Bulthuis, Luyken に至つてわ徒らに規模廣大に過ぎて esp. 文學の粹として認めることとできない。その中で J. Baghy の“Viktimoj”はダンセン光つている。

その主題とするところのもの、世界大戰の犠牲者としてシベリアへ流されたハンガリーの捕虜の生活である。1917年のロシア革命に際して彼ら捕虜の生活に捲き起された波瀾の記録である。生活の闘争から逃避した悲慘な人生落伍者の物語でもある。

際てしないシベリアの雪の廣原に踊る愛慾の争。血みどろの革命。失われた戀の後を追うて死の列車に乗る。作者自身のもつ melankolia な humanista burĝa ideologio の破綻の全き表現だ。

しかし何と言つても talenta な流麗な stilo と特殊な temo にそゝられるわれわれの興味を押し進めて最後のページに至らしめる。さこちない新しい翻譯ものを讀むよりわ Baghy のこの一書を讀むことをすべての esp-isto にすゝめる。(近く多數圖書部へ来る筈)

★ANNI KAJ MONTMARTRE, originale verkita de Raymond Schwartz. 13×16 cm. p. 127. eld. Esperantista Centra Librejo, Parizo, 1930.

“Verdkata Testamento”と“Prozo ridetanta”とでその輕妙洒脫な spriteco と飽くまで尖端的なキビキビした筆の巧みさを 100% に發揮したバリのシイク・エスペランチスト



の親玉シュワルツのものした remano.

古くさいドイツの片田舎で一緒になつた、Kelnero と var listino がパリの真中、モンマルトルの歡樂境に飛びこんで演ずる現代劇。Diboĉejo, Kanajlo, prostituado, ĉiesulino, コカインの密輸入、警官暗殺等の文句を並べて、Ŝvare 一流の文章で綴れば、大體の筋が解ろうと言うもの。したがつて、至つて當世向きな「所謂」純潔ならざる戀愛ばなし。

Baghy の固苦しくもまじめな戀愛觀人生觀さわがらりと變つた明るいナンセンスが主調となつてゐるのわ、今のブルジョア文壇のよい反映だ。〔近く多數着荷のはず〕

★JUNECO KAJ AMO, verkita ke E. S. Payon, 11×16 cm. p. 69, eld. The Esperanto Publishing Co. London, 1930.

老いてますます健在の Payson 老の作。“Legendo el Venecio” と銘打つてある如く、ゴンドラの紅燈波に映るイタリアわヴェニス of 戀愛譚、譯文わ例によつて至つて達者なもの。

★LA MORTADO, prof. D-ro Hermann Nothangel, trad, Bernhard Selzer, 15×22 cm. p. 27 eld. Esp-societo “Progreso” Wien, Aŭstrujo, 1930.

1900 年 3 月 25 日 Wien で公開された H. Nothangel 博士の演説のエス譯。死の問題を醫學者の立場から説いたもの。しかし文藝作品を廣く參照して説明を容易にしている點で、かなり解り易い。

★BENGALAJ FABELOJ, Lakshmiswar Sinha, 14×19 cm. p. 39. eld. Eldona Societo Esperanto, Stockholm, 1930.

數ヶ月前に “Sivagi” を出した同じ著者によるインドの古い童話を集めたもの。著者わ未だスエデンに滞在、esp. で講演旅行をして

いる若いインド人。

★JEN LA HOMO, P. Danor. 12×19 cm. p. 31 Burgas, Bulgarujo, 1930.

宗教的人道主義を提唱する “Nova Kulturo” 叢書の一。Biblio を引例してなした講演の esp. 譯。

★CEROGIWA MIWAI, NOVA SPECO, Hiromiĉi Kōno. 19×25 cm. p. 2, 1930

臺灣博物學會々報に發表された Kōono 氏の新種ミワトゲツノハムシダマシの解説の別刷。

★AŬSTRIO, eld. Ministerio por komerco kaj Trafiko, Wien, 1930.

オースタリー商務交通省で出版されたオースタリー、案内記、展げて 132×25 cm. の原紙に美しい繪や寫眞を入れ、詳しい地圖もつけてある。(郵券 6 錢送れば上げます)

★LANGUE INTERNATIONALE, E. Lanti, 12×19 cm. 80. eld. Fédération Espérantiste Ouvrière. Parizo, 1930.

SAT の主筆 Lanti がフランス語で説いた esp. 宣傳冊子の第二版。初めに多くの言語學者の言を引き esp. の可能性を説いて、その充分な發展と利用とを Proletaro に歸し多くの實例を擧げて論證してある。

★BES ADRESARO 1929/30, 11×15 cm. p. 84 Bohema Esp.-Servo, Ĉekoslovakujo.

通信、蒐集を目的とする各國 esp-istoj の年鑑。Korespondemulo にわ好い手がかりになるう。

★NORTH AMERICAN ESP. ALMANAC 1930, 10×15 cm. p. 112, eld. Esp. Association of North America Fort Lee N. J. Usono.

北米エス協會の初めて出した年鑑。Esp. 運動の解説わ行届いている。



# 地方エスぺラント運動紹介

【その 1: 大阪】

1) 日本の各地の運動の歴史と現状を知り合つて、お互に今後運動の参考としたい、まづ大阪から手本をだします。

2) 運動史などいうものゝ個人で書くゝ自分だけの知識にまごまり獨断がはいることがないでもない。もしこれを讀まれた先輩が、「あれわそうでわなかつた」と訂正の小言を言つてくだされば、それだけ運動史が完全になるわけです。

3) 大阪だけについても相坂氏の思い出談以外に、そして私(=川崎)の知つてゐる範圍でも、磯崎氏の活動、大阪高商の *Verda Amiko* 發刊、花火線香のように花々しくしかしすぐ消えた、例のむづかしい社交會 *Verda Formiko* (Esp. 以外の言葉をしやべるを許さず、入會資格あり。——稲田氏中心) などがある。

4) もとより完全な運動史でわないが、まずこれだけの原稿の材料がまごまつただけでも喜びたい。これだけの材料でももう10年もしたら集らないかもしれぬ。

5) 最後に相坂氏わ *mortiga okupado* 中の一晩をさいて無理に昔のこさを思い出してく下さつたことにあつくお禮を申しあげる。

——川崎直——

## I. 大阪 Esp. 運動の思い出

相坂 信 (談)

〔文責筆記者(=川崎)にあり  
ただし相坂氏校閲す〕

1930年7月15日

1916年より少し前僕が東京から大阪え来る以前、大阪方面にわ辻利助氏、阪上佐兵衛氏、神崎泉氏(當時大阪時事新報記者)がおられて、集會をしていたらしい。僕が東京から來てから、これらの人々といろいろ相談の結果3月に *Osaka Esperantista Societo* (大阪エスぺラント協會)を5人(前記の人々以外に龍吐源一氏)で創立した。いつたいこの5人が互に知り合う媒介者となつたのわ *Elementaj Lecionoj de Esperanto* (初等エスぺラント講義?)という赤い菊版のクロース本 360p. ぐらい。臺灣から一冊で發行。實際わ(小坂氏の

著)であつた。その本の終りに阪上氏が *Sakai Esperantisto* という月刊雑誌を出しているという記事があつた。で僕と阪上氏わ通信し合うようになつてゐた。僕が大阪に來ると、阪上氏を訪れ、阪上氏より大阪の *samideanoj* の *adresoj* を知り、神崎氏と知り合い、また辻さんがやつてきた。その當時の集合場所わ千日前のカフェー「クレナキ」で毎月一回であつた。

その「クレナキ」の主人わ大阪商船の「くれない丸」の司厨長であつたので、世界各國をまわり、國際的思想があり、我等の事業に同情して、二階の部屋を無料で貸してくれた。神崎氏が新聞記者であるので、集合の記事が新聞ににすぐ出たので、ためにカフェーの廣告にもなり、主人よろこんだ、で物をたいして食わずとも文句をいわなかつた。その當時僕わ國際通信社に居つた。活動的な神崎氏わ古い同志を訪問する計畫をたてて、JEA 時代の會員名簿(39年)をくつてみると、その當時大阪にわ凡そ15人ほど JEA の會員があつた。で大阪高醫の先生で醫者であつた堀見克禮氏を神崎氏とさにも訪れた。氏わ『このごろやつていない。本わ少しは持つてゐる。要れば君達持つていつてもよい』。大阪高醫の先生(言語學者)の北里蘭氏にわついに會えなかつた。

その後間もなく會の名前を *Osaka Esperantista Asocio* と變更した。ある年黑板氏が大阪え來た。『大阪の會わたいして大きくもないのに、Asocio とわ大きすぎる。前の名前のほうがよいじゃないか。』と言われたので我々わ辯護した。『JEA の支部をもつて任じてゐる。しかし支部さうさ、いかにも小さいから、大阪で大々的に宣傳するにわ、名前の大きいほうがよい。』と、話がもどろが、大阪エスぺラント協會創立後の幹事わ相坂、神崎、高尾亮雄、辻の諸氏、評議員のうちには伊賀駒吉郎氏(現在の樟蔭女學校長、當時はずでに夕陽丘高女校長をやめていた)、櫻根孝之進氏(醫博、*Rômaj*), 下野信之氏(大阪一等測候所長)などあつた。黑板さんが來た前か、後かわはつきり覚えてないが、廣島から高橋邦太郎氏が博覽會を見に大阪え來た。大々的の歡迎會をやつた。神崎氏の知つてゐる琵琶歌師匠の女もやつてきた。そして「エスぺロ」



の和譯したのを歌つて大喝采を博した。高橋氏の長い Esp. 演説を僕が通譯した。その當時大阪でわ Esp. 運動の理論方面の議論ばかりして、いて實用的會話の練習は兎角怠つてゐた。神崎氏も短く挨拶を述べたが、高橋氏の長いので通譯の僕が行詰つてしまつた。さうさう高橋氏も自分で譯した：この高橋氏の流暢な演説は大阪のものに大きな刺激を与えた。それからだいぶ後丸楠君のお父さん武藤於菟氏が大阪にたちよつた。その頃の集合所はカフェ「クレナキ」、千日前の法善寺。この坊さんがよく了解してゐたなどで小さい講習會をやつた。天満教會、櫻根病院でも講習會をやつた。

それから間もなく、神崎氏の立案で、「女の Esperantisto を養成せねばいかん。女が増せば、男も増える。」とて女だけに教える講習會を開く、四、五人やつてきた。その中に阪本朝子氏(後に平野長克氏夫人)、堺屋梅子(後に僕の家内、長崎から大阪の親類の許に来て習つた。)小野さわえ氏(梅花英文出身)。ある女(ロシア語ができた。ウラジオの學校におつた。後、神崎氏の紹介で大毎の婦人記者になつた)。

そんな事をやつているうちに高尾氏が加つた。Rómaji の關係からである。最初わ理窟を言つたがついに加つた。この頃いろいろ宣傳的な印刷物をだした。

二三年たつてから福田國太郎氏が東京より大阪へ移つてきた。東京の保險會社の大阪支店である。田中克三氏もちよいちよい出席した。福田氏と田中氏とわ東京時代よりの知り合。僕と稲田氏とも東京時代よりの知り合、稲田氏がよくできるので中心になつた。實際的傾向になつた。福田氏が諏訪の森(濱寺の近く)に住むようになつてから、僕も一しよに住んだ、僕にわ家内があり、當時福田氏にわない一しよに住まうのが經濟的で且つ 에스語の練習にもよいからであつた。平野長克氏(雅號夕顔)東京より来る。Japana Esperantisto にすでに詩など書いていたので、僕も大いに感心していた。森内英太郎氏早稲田を卒業して大阪の加島銀行にはいつた。福田氏、森内氏、平野氏、僕が相談の結果1920年七月 Verda Utopio を發刊。資金、原稿各自だしあい。挿繪は平野氏がひき受けた。第一ページにわ日本の古い同志の寫眞、後にわ浮世繪、が後には財政上困難。福田氏ひそりで資金をだす。後にわ中絶。

この雑誌發刊以後にフィンランド公使

Ram. 氏と何盛三氏が來た。灘萬で歡迎會。婦人連(僕らの養成したもの)出席。小野さわえ嬢が流暢な歡迎の辭を述べた。Ram. 氏驚いた。當時東京においてわ外人と流暢に話すことのできる女はいなかつた：Alexander 嬢わおられたが……。その頃「クレナキ」で會ができなくなつた(經營者が變つたので)。東教會で集合を始めた。牧師(トルストイアッでロシア語ができた)が理解を持つていたからである。その頃京都の同志と大阪の同志と共に屢々遠足をやつた。岩橋武夫氏もその頃やりだした。盲目であつて、妹が手を引いて、僕の家へ遊びに來た。Eroŝenko が二週間ばかり岩橋氏の宅に泊つた。Eroŝenko わバラライカを鳴らした。相愛高女樓上で Eroŝenko の音樂會をやつた。別に繪ハガキ展をもやつた。

Vaughn, Dick 兩氏も二三回見えられた。活氣がついた。大阪高商で福田氏宣傳演説をなす。Y. M. A. C. で僕が英語攻撃演説をする。同所同志山縣辰藏氏にあまり猛烈すぎるさ叱られた。高商には英語の先生で同志があり、grupo ができた。その頃關西大學に宮島綱男氏(東京外語出身)あり、福田氏の同窓(外語)福田氏が關大の講師になるやうな噂もあつた。

Verda Utopio 社から千布利雄、「エスぺラント讀本及び文範」を出版。千布氏も當時神戸郵便局にあり。

工業の日本社に英文植字の職工(二人ばかり)あり。僕と福田氏とで彼等に Esp. を説明した。字引の古いのをやつた。なかなかうまくなつた。一人の職工は Verda Utopio の組につききりであつた。

福田氏と田中氏とで Osaka Komerca Korporacio を創立、貿易の仲介、海外事情の紹介が目的、これわ店びらきだけで大した事もなかつた。

平野氏と阪本氏と結婚。福田氏の近くに住居。で濱寺(諏訪の森)が大阪の運動の中心になつた。

1923年岡山の日本大會の Antaŭkongreso を外語講堂で開く。中目覺校長しやべる。

ロシアの不幸な同志 Serišev 司祭大阪に來る。僕の家で一週間泊る。和服で市内へ遊びに行く。尾行つく。Eroŝenko のときにもつた。

神崎氏 Esp. をやめる。『自分としてわ將來 Esp. 以上のものが、できると思われる。そうなるさ今の Esp. わつまらぬ。だから今努力してもつまらぬ。』僕も『一層よいのできる



まで現在のをやつてもよいじゃないか』と忠告したがだめ。氏わ新聞社をやめ、活動辯士、ストーリーライターなどになつたが、今どうしてゐるやら會つてみたい。

1924 年頃一時運動の内部に勢力争い起る。それで僕わ新しい方面を開拓するため國際聯盟協會大阪支部の内部に Esp. 部を設けることを、常任理事の高柳松一郎博士と商品陳列所長の二人に話した。賛成された。この支部主催、大朝、大毎後援で講習會を開く、200 人近く來た。夏商陳の二階。粟飯原晋氏夏休みで大阪にいたので、手傳ふ。當時の講習生中に米田徳二郎氏、古屋登代子氏、道橋一氏あり。で僕が支部代表で、その年の仙臺での日本大會え出席。

歸つてから JEI の支部を作ろう考えた。講習生を中心として、川崎氏の家で相談會を開く、西田英夫氏、柴田恭二氏、米田徳二郎氏、松林實氏、高尾亮雄氏、淺井惠倫氏其他出席。福田國太郎氏わ當時「SAT の會員であるから、中立的の團體には加入せず」と稱して、僕の招待に應じなかつた。結局會は成立。事務所わ半田氏宅(京町堀)。場所よし、例會繁昌。渥美小學校で發會式。淺井、辻、平出僕しやべる。その小學校で講習會。古屋女子英學塾で常設講習會。またそこで文藝會、Esp. の芝居あり。八木日出雄氏京都より出席。實業會館で Zamenhof 祭。Braikford 氏(神戸クロニクル記者)しやべり、八木氏通譯。僕わ Zamenhof の一代記をしやべる。古屋女史もしやべる。

Ramstedt またまた、僕と高尾氏北村兼子女史とでひつげりまわす。市役所、市民館、産院、六甲の中山太陽堂の別荘なごえ。神戸で演説(幻燈附)宴會。大阪でわ商業會議所でやる。佐々木佑氏ついてくる。その夜 Ram. 氏わ川崎氏の家で泊る。北村兼子氏關大で短期講習會を開く。

朝會館で Zamenhof 祭。石井漢、小浪の舞踊あり。石井氏わ外遊中 Esp. を知る。白木屋でエハガキ展。

1927 年の日本大會(福岡)で大阪で來年度大會を開くことになる。そのため OES (Osaka Esperanto-Societo) が生る。それ以來僕わ忙しくなつたのであまり會にも出ない。この後のことわ僕わよく知らない。いづれ又大いに

やる時であらう。まだこの外澤山言ひ洩らししてゐる事があると思ふが、いづれ又ゆつくり思ひ出した時にお話ししませう。(ノートが急に見つからず年代がはつきりしないのは残念だ。

## II. 大阪エスペラント運動の現状

進藤靜太郎

O. E. S. は昭和三年の春生れた。丁度同年の秋には前大會の指名に由つて大阪が第十七回日本エスペラント大會を開催する事になつてゐた。處で當時活動していた學會大阪支部が立派に存在しているにも拘らず更に O. E. S. が出來たのは何故かと云ふと:

1) 學會支部と云ふ名前が大會開催に當つて學會會員たるを否かを問はず凡ての同志を叫合するに適せぬ事。

即ち、名前から局外者には學會會員だけの集りであつて學會に入會せぬ以上加入出來ない様に思はれ易い、此の傾向は O. E. S. になつてから明に無くなつた事實に徴しても察せられる。

2) 組織上事務遂行に不便な事。

嚴密に學會支部と云えば其の地方の學會々員全部を包括するものでなければならず、しかも其等會員全部が必ずしも積極的に支部の仕事に關心を持つてゐることは限らず内には既に所謂 *dormanta membro* も少くない事だから總會其他會務處理に當つて採決を要する場合でも折角の出席者が全員の過半数に達せず流會に了る事が少くなかつた。

此の缺點を除かんが爲に或は全員の過半数でなくともよい規定にしては、さか、又は其他の方法での *dormantaj membroj* の會員權を一時停止しては、さか更に、文書を以て議決に参加する事を許しては、さかの癡策も考えられたが、然し是等は徒らに會務の爲に支部本來の意義を没するもので角をためて牛を殺す様な事になる。

上述の様な不利な點を除いて支部の様な地方同志の單に學會々員であるが故の團結と云ふ様な抽象的な目的を排して仕事の爲の會、其の目的に賛成な者だけの會を作つたのが O. E. S. である。其の目的とは他でもない一



般普及並びに會員の向上で、更するに能率的に合理化された地方會である。

こう云ふ會が特にこの大阪の地でこんなまでに嚴密にして出来たのは大阪の地方色の一つであつて、現に O.E.S. の定期總會を開くに當つて各會員に特定の一週間内に於ける都合を問い合わせたところ、回答全部が都合よしとする日は一日もなく僅かに七日の中一日だけしか回答中の一人を除いて時間の都合が付く日がない事を明にした様な次第である。既に O.E.S. の會員にして斯くの如しであるから他の場合は想像に難くない。それも皆職務上の都合であつて決して個人的なものでないから恐ろしいものである。

こう云ふ具合であるから、創立後今日に到るまで滿二ケ年は全く準備時代であつて従つて會費も極めて安く僅かに一ケ年六拾錢である。其の代り到底この少數では會務を行えないので、學會々費の割戻し書籍現金買ひによる利益講習會々費等の一部分を一般會計に流用している。やがて會費が一般會計を蔽ふまでに引上げが許された暁には其等犠牲金額が積極的に普及の爲に用いられ必ずや活躍の見るべきものがあらうと期待されている。

この様な境遇にあつて、しかもなかなか會場の得難い都會にも拘らず完全な初等講習五回中等講習二回が催され、例會研究會（常に Kabe, Boirac, Milidge 等の辭書參照）も最近一ケ年は殆ど毎週缺かさず行はれている。これらは關西の初等講習に多年の經驗を有せらるゝ西田英夫君、柴田恭二君及び小坂氏直弟子の進藤靜太郎君、の講習指導者として完璧な腕前及び海外の及ぶ限りの權威者に問合せ狀を一々出してまで徹底せれば止まぬと云ふ熱心さでそこらの職業的教授連裸足の川崎直一君の學識にも據ることであるか他面又 Organizantoj としての佐々木祐正君大崎和夫君山中英夫君等の努力も大いに認らるべきである。而してこの様な全國的にも一騎當千の實力家が大言壯語することなく他の會員と共に和衷協同して行く限り O.E.S. の前途實に

囑目に値するものがあるのは當然である。況んや近來若い會員が増加するに於てをや。

現在會務は會則に由つて六名の委員が進行係的役目をしている。三名づゝ半年毎に改選で重任を許さぬ。事業は事業毎に Komisiono を作つて遂行まで成るべく人を改めず事業と會務とを區別する方針である。

尙最近の状態は： 一ヶ月

通信數量（出入會計）	84 通
現金出入	92 圓
振替口座	145 圓 16 錢

O.E.S. はその設立の當時から振替貯金口座を持つてその會計を合理化している。第一口座報告は一々出納及び残高を明にし會計事務を簡明にしてくれ、且つ間接に會計の安全、學會との金錢授受を容易にし會にとつて便益甚だ多い。いやしくも永續的地方會を目指すものはこの便益を利用せねば嘘である。ちなみに口座番號は大阪 84930 である。

O.E.S. は名ばかりの統一機關でない、動かすべからざる Esp. の語學的權威とそれを活用さす能力とを中心とした實力機關である。従つて同じ大阪に他の會の出来る事を歓迎こそすれ反對しない。然しいやしくも Esp. が言葉である以上この unika aŭtoritato を利用する事を知らぬ様な團體は未だ曾つて永く存続したことがない。大阪の Esp. Movado は言葉と云ふ事を忘れぬ以上、O.E.S. を中心として着實に發達して行く。華々しくはない代りに、それだけ堅實である。従つて、Nacia Societo 本來の使命を忘れ、且つ Esp. Literatura の舞臺は世界である事を認識してそれが爲努力するだけの骨折を惜んで Nacia Societo の organo を自己満足の具に供せんとする我儘坊、自己の陣營中に Beletristiko 否定の聲が擧がつてゐるのを知らずに、且 Esp. Literatura の全班に對して確實な知識も持たずに Beletristikajoj だけで Esp. 文壇を批評する様な輕卒者などは O.E.S. の周圍には一人も居ない。



# SFINKSA PAGO

(考へもの数題)

近藤國臣

Esperanto の「考へもの」——enigmoj (謎), ŝaradoj (字謎), rebusoj (判じもの), ŝercemandoj (しやれ問答), k. t. p.——にはどんなものがあるだろうか? distrajo をしてもいささかの興なしとしないから見本を少し並べてみよう。

## I. Kaŝitaj vortoj

たとえば “Ju pli da babilado, des pli da pekado.” さいふ諺には偶然にも vestaĵo がかくされてゐる (Ju pli — “jup” = スカート) かういふ様に次の文章には夫々括弧内に示されたものがかくされてゐる:

1. Li diligente studas la araban matematikaŭtikon. (besto)
2. El Hispanujo venis tri gazetoj por infanoj. (birdo)
3. Mi esperas ke la rikolto estos bona. (arbo)
4. “Virino kolera pli ol hundo danĝera.” (vegetaĵo)
5. Ruĝa briko taŭgas por ĉiuspecaj domoj. (frukto)

## II. Kunigo

Kunigu eklezian ĉefulon kaj faron kaj vi ricevos dorlotbirdon. さいへば 難しい様だがこれは pap(eklezia ĉefulo) + ag(faro) = papag (鸚鵡). この種類には:

6. Kunigu tempparton kaj prepozicion kaj vi ricevos grenon.
7. Kunigu malgrandan beston kaj parton de la korpo, kaj ricevu alian parton de l' korpo.
8. Mia unua estas videbla frumatene, Mia dua troviĝas inter kontinentoj. Mia tuto estas mambesto.
9. Partigite mi estas tre nobla de l' homo. Sed kunigite, ho ve! — naturfenomeno terura.

## III. Senkapigo 別名 Kaptranĉo

II. Kunigo の反対であつて、vorto の kapo (unua litero aŭ silabo) をとり去つて他の vorto を作り出す:

10. Senkapigu beston kaj ricevu alian beston.

11. Senkapigu birdon kaj ricevu parencon.

## IV. Kapŝanĝado

12. Vi sentas min ĉe vasta maro.

*Ŝanĝu mian kapon, kaj*

Kun P, min serĉu en la fruktarbo;  
Kun C, per mi fariĝas nigra brilo;  
Kun L, mi estas bela muzikilo;  
Kun D, min faras ĉiu parolanto;  
Kun V, vi eble estas mi, leganto.

## V. Kvadrato

横第1行と縦第1列、横第2行縦第2列、……が夫々同一となる様に字をうめること次例の如く:

• • • •	numero	答: K V A R
• • • •	sonĝo	V I Z I
• • • •	besto	A Z E N
• • • •	cirklo	R I N G

13.
 

• • • •	aro
• • • •	vivrimedo
• • • •	nedividebla
• • • •	besto komika

## VI. Diamantaĵo (V. Kvadrato の變形)

14.
 

•	konsonanto
• • •	refleksiva
• • • • •	tempparto
• • • • • • •	stila figuro
• • • • •	besto
• • •	memoriga
•	konsonanto

## VII. Zigzagajo

\* 印のところを順次辿るさ一つの語を與へる様に各行の語をえらぶ:

15.
 

* • • • •	persono
• * • • •	parto de domo
• • * • •	parto de korpo
• • • • *	manĝaĵo
• • • • *	naciano
• * • • •	laboro
* • • • •	koloro
• * • • •	besto
• • • • *	cirklo
• • • • *	monero



## VIII. Cifera enigmo

16. Mia 1 2 6 5 estas korelativo  
 Mia 9 4 10 5 6 3 estas naciano  
 Mia 11 10 6 3 4 estas intelekto  
 Mia 7 8 5 11 7 estas vegetaĵo  
 Mia 12 10 6 7 estas parenco  
 Mia tuto (1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11  
 12) estas moderna amuzilo.

## IX. Travorto

各行に示された条件を満たす literoj の内一つをえらび、順次つなぎあはせて最後に示された語を作る。18. で言へば、「*jupo* にあつて *bluzo* にはない」のは j, p; 「*maro* にあつて *tero* にはない」のは m, a; … 之をうまく拾ふと *patrin'* (=via amatino) となる。この種の enigmoj は各行 *bluzo* (作業服) — *jupo* (スカート)、*maro* (海) — *tero* (地)、… *palp'* (さばる) — *tuŝ'* (ふれる)、*stern'* (敷く) — *kuŝ'* (横はる)、… の如く縁の近い語を並べ (19. では *tuŝ'* — *kuŝ'*, *ĝu'* — *ŝu'*, … さ音を揃へ) た上に、之を縦に貫いて語を組立てるさといふ縦横二段構へになつてゐる。

17. Mi estas en *jupo* sed ne en *bluzo*,  
 Mi estas en *maro* sed ne en *tero*,  
 Mi estas en *teo* sed ne en *kafo*,  
 Mi estas en *sukero* sed ne en *lakto*,  
 Mi estas en *foiro* sed ne en *vendejo*,  
 Mi estas en *hundo* sed ne en *kato*,  
 Mia tuto estas *amatino* *via*.

18. Mi estas en *palp'* sed ne en *tuŝ'*,  
 „ „ „ *stern'* „ „ „ *kuŝ'*,  
 „ „ „ *ĝoj'* „ „ „ *ĝu'*,  
 „ „ „ *boi'* „ „ „ *ŝu'*,  
 „ „ „ *lav'* „ „ „ *ban'*,  
 „ „ „ *membr'* „ „ „ *an'*,  
 „ „ „ *met'* „ „ „ *lev'*,  
 „ „ „ *song'* „ „ „ *rev'*,  
 „ „ „ *volv'* „ „ „ *vind'*,  
 „ „ „ *lig'* „ „ „ *bind'*,  
 „ „ „ *prov'* „ „ „ *tent'*,  
 „ „ „ *palp'* „ „ „ *sent'*,  
 „ „ „ *land'* kaj ankaŭ en *mard'*,  
 „ „ „ *pork'* sed ne en *lard'*.  
 Plezura distraĵo estas mi,  
 Kaj donas profiton eĉ al vi.

## X. Vizitkarto

名刺によつて (literoj を排列し直して) その人の profesio を鑑定する。例へば

Irene Koln は *Kelnerino*.

19. 

S-o	I. O.	Taff
Gort		

  
 20. 

Don	F. Troust
Kiev.	

## XI. Mankantaj vortoj

次の文章中、語の缺けた箇所が 9 あるが何れも A, K, N, O, R の 5 literoj から成立つてゐると言ふ。さて何さいふ語を入れたらよいか?

21. La . . . . . estis levita, kaj la ŝipo forlasis la . . . . . marbordon. La loĝantoj kriis . . . . . adiaŭon al la ŝipestro, kiu, endormiĝinte, respondis nur per . . . . . bruo. La ŝipo portis sufiĉe da nutraĵo, precipe la . . . . . de . . . . . besto. Sed la ŝipanoj baldaŭ sentis la . . . . . de soifo, ĉar la barela krano difektiĝis, kaj ĉiu guto de akvo estis pli valora ol . . . . . diamanto.

## XII. Aliformigo

22. Aliformigu KARLON en LEONON (*ho! kia magio!*), ŝanĝante nur unu literon en ĉiu vorto. Ekz. KARLO — KARTO — LERNO — LEONO.

## XIII. Rebusoj

23. ilo, (=necesaĵo en presejo) 答: kompostilo 植字架 (kom post ilo).  
 24.  $\frac{\text{gu}}{\text{i}}$  min!

## XIV. Ŝercdandoj

25. Kia ŝtono estas la plej pia? — Diamanto (di-amanto).  
 26. Per kia litero oni povas fari juvelon? — Per L (perlo).  
 27. Kiom da personoj ĉiu hamo havas? — ok ulojn (okulojn).  
 28. Kiel oni en frukto fariĝas? — Pi-oni-ro (pioniro).

以上は *The British Esperantist*, *International Langage*, *Esperanto-Praktiko*, *La Lernanto* (Sennaciulo 附録), *Marto* (=Ofic. organo de Germana Esp.-Ligo en Ĉeĥosl.) 等から蒐集したのであるが、Esperanto の「考へもの」はこの外にもつと sprita なもの、面白いものが多種多様にあることは言ふ迄もない。Gajaj Horoj には ŝercdandoj や vortludoj だけでも百數十あるさといふことだ。(解答次號)



## 通俗科學欄

船の噸數について

長崎三菱造船所參事

高見和平

mal'peza kroz'ŝipo

de 10 000 tunoj 一萬

噸の輕巡洋艦。

rilate al に関して。

majest'ec'o 威風堂

々たる事。super'-

grada 高級の、超弩

級の。trans'pacifika

太平洋通ひの。

pasaĝer'ŝipo 客船。

komuna bazo 共通

の根底(基準をさ

す)。mezur'unu'o 測

定單位。tipo 型。

termino 術語。ne'-

fak'ul'oj 非專門家。

pezo 重量。volumeno

體積。peza tuno 重

量噸。volumena tuno

容積噸。

## SCIENCA PAROLEJO

## PRI TUNAĴOJ DE ŜIPO

De U. TAKAMI

*Micubiŝi Ŝipfabriko, Nagasaki*

Lastatempe oni diskutadis pri malpezaj krozŝipoj de 10,000 tunoj rilate al Londona Konferenco aŭ parolas pri la majesteco kaj eleganteco de la supergradaj transpacifikaj pasaĝerŝipoj de 17,000 tunoj. Sed tiuj ĉi tunoj ne staras sur la komuna bazo, per kiu oni povas kompari ŝipojn unu kun la alia. La mezurunuo "tuno" havas multajn malsamajn sencojn ne nur laŭ la diverseco de ŝipaj tipoj, sed ankaŭ eĉ en unu sama ŝipo mem. Mi do klarigos la diversajn sencojn de la vorto "tuno", tre konfuzema termino por nefakuloj.

Tuno ĝenerale havas du sencojn, nome, la unua esprimas pezon kaj la alia volumenon (peza tuno kaj volumena tuno).

Unuo de peza mezurado:—Unu peza tuno egalas 2240 funtojn anglajn, egalvalora al la pezo de 35 kubaj futoj da marakvo. En landoj, kiel Francujo kaj Germanujo, kie metra sistemo estas uzata, oni havas metrsisteman tunon egalvaloran 1,000 kilogramojn.

Unuo de volumena mezurado:—Unu volumena tuno estas 100 kubaj futoj anglaj, kiu ankaŭ estas nomata unu tuno. Tiu ĉi unuo estas utiligata tra la tuta mondo por mara komercado, ĉar uzado de diversaj unuoj kaŭzas multe da konfuzo en komerca negocado.

Deveno de la termino "tuno" ŝajnas esti jena: En malnova tempo, grandeco de unu ŝipo estis esprimata de la nombro de barelegoj de alkoholaĵo enŝipigeblaj. "Tunn", la nomo de la barelego (origino de l' angla vorto ton) fariĝis unuo de ambaŭ pezo kaj volumeno.

Akvodismeto aŭ simple dismeto:—Ĝi estas la pezo de akvo dismetita de flosanta ŝipo, sekve la pezo de la ŝipo mem. Oni ne povas mezuri la pezon de ŝipo rekte per pesilo, kaj sekve devas enkonduki malrektan rimedon. La volumeno de enakva parto de ŝipo estas zorge kalkulita



el desegnaĵo, kaj dividite de 35 kubaj futoj donas la pezon de la ŝipo en tunoj. Tunoj de militŝipo estas esprimataj de la dismeto, tial la frazo '10,000-tunklasa krosŝipo' signifas unu krosŝipon kun dismeto de 10,000 pezaj tunoj.

Ŝarĝtunaĵo:—Ŝarĝa pezo de unu ŝarĝŝipo estas ankaŭ esprimata en pezaj tunoj. Ŝarĝtunaĵo estas la mezurkvanto de ŝarĝporta kapacito de unu ŝipo, kiu signifas la pezon de komercaĵoj portataj kaj la pezon de hejtajo en karbujoj. Senŝarĝa tunaĵo estas ŝipa pezo kun nur ekipaĵo kaj maŝinaro; sekve senŝarĝ- kaj ŝarĝtunoj donas la plenŝarĝtunaĵon aŭ la tutan pezon de la ŝipo plene ŝarĝita.

Kurbo de ŝarĝkapacito:—Ĝi estas kurbo, kiu esprimas la rilaton inter akvoprofundo kaj dismeto. Per tiu ĉi rimedo oni povas tuj scii ĉe iu profundo kiom da ŝarĝo estas enŝipigebla.

Volumena tunaĵo:—Ĝi estas uzata en sekvantaj okazoj:

Tuta registrita tunaĵo:—Volumenoj sub la tunajferdeko kaj tutaj enfermitaj fakoj sur la sama ferdeko, mezuritaj en tuno de 100 kubaj futoj, escepte de spacoj necesaj kaj nemankeblaj por navigado, sendanĝereco, sano, k. t. p.; spacoj enfermitaj signifas spacojn ĉiam fermitajn en ĉiuj flankoj; nemankeblaj fakoj enhavas spacojn por direktilo, ankrolevilo, direktado, kaj ankaŭ kuirejon, lavejon, k. t. p. Neta registrita tunaĵo:—Aktuale profitpova tunaĵo de unu ŝipo, kiu estas gajnita per depreno de tiaj spacoj kiuj ne havas mongajnan kapablecon, kiel kajutoj de ŝipanoj kaj maŝinarspaco el la tuta registrita tunaĵo. Etaj diferencoj sin trovas en leĝoj de kelkaj regnoj rilate al deprenataj spacoj.

Neta registrita tunaĵo estas uzata por havena kaj kanala impostoj kaj aliaj similaj depagoj de komercŝipoj.

Kiel ekzemple kiamaniere la suprecititaj diversaj tunaĵoj ŝanĝiĝas en unu ŝipo, ĉisube estas donitaj ĉirkaŭaj nombroj "Tacuta Maru" kaj "Ĉiĉibu Maru".

Dismeto . . . . .	22,000 tunoj,
Tuta registrita . . . . .	16,800 " ,
Neta registrita . . . . .	10,000 " ,
Ŝarĝtunoj . . . . .	8,000 " .

funtoj anglaj 英國制  
封度。kuba futo 立  
方呎。mar'akvo 海  
水。metra sistemo  
メートル法。nego-  
c'ado 商賣、取引。  
barelo 樽。en'ŝip'ig'-  
ebla 積載可能の。  
flos'anf'a 浮いてゐ  
る。akv'o'dis'meto  
排水量。ŝarĝ'tun'-  
aĵo 載荷噸數。ŝarĝ'-  
ŝipo 荷物船。kapa-  
cito 能力。hejtajo  
燃料。karb'uj'o 石  
炭庫。ekip'aĵ'o 艙  
裝。sen'ŝarĝ'tun'aĵ'o  
空荷噸數。maŝin'-  
ar'o 機關。plen'-  
ŝarĝ'tun'aĵ'o 滿載噸  
數。ŝarĝ'kapacito 載  
荷容量。akv'o'pro-  
fund'o 吃水。tuta  
registrita tunaĵo 總  
噸數。tun'aĵ'ferdeko  
量噸甲板(噸數を  
測る目安なる甲  
板なり)。direkt'il'o  
操舵機。ankr'o'lev'-  
il'o 揚錨機。direkt'-  
ad'o 操舵。neta  
registrita tunaĵo 登  
簿噸數。kajuto de  
ŝipanoj 船員室。



## TRAKTATO PRI LA ORIGINO DE JAPANA POPOLO

*Enigmo : Lingvo korea kaj loĝmaniero de Sudmaraj insulanoj.*

*Solvo : Norda edzino kaj suda edzo. Simpla teorio.*

[La originala teksto en japana lingvo estis presita en la *Jurnalo de la Imperia Universitato*, Decembro, 1928, kaj ĝia traduko en angla lingvo preparita de la aŭtoro estis publikigita en la „*Japan Advertiser*,“ Septembro 3, 1929, kaj en la „*Trans-Pacific*,“ Septembro 19, 1929.]

Kiam mi lastatempe vojaĝis al mia naskiĝloko en Kiuŝu, profitante la okazon mi rondvizitis lokojn de historia intereso en la insulego, ĉar mi jam de longe interesiĝas pri la studo de la origino de Japana popolo. Ĉe mia vizito al la malgranda insulo Aoŝima aŭ Verda Insulo apud la piedo de la monto Takaĉiho, al mi ŝajnis ke mia spirito forflugis tra la granda perspektivo de multaj jarcentoj al la epokoj de dioj antaŭ la historio. Mi tiam sentis kvazaŭ mi ektrovis subite la lumon de vereco ĵetitan sur la demandon de la origino de nia popolo kaj dispelantan ĉiujn dubojn pri la punkto ĝis tiam kaŭrantajn en mia kapo. Pro tio mi skribas tiun ĉi traktateton.



# **Traktato pri la Origino de Japana Popolo**

**De  
MOTOJUKI TOKIEDA**

**KUN KOMENTARIO  
DE  
D-RO G. J. RAMSTEDT**



Ni ĉiuj scias, ke kiel la lulilo de Japano popolo du tute malsamaj lokoj estas rekonataj de ni japanoj: nome, la provinco de Hjuga en la sudo kaj tiu de Izumo en la nordo. Konsekvence, unuj subtenas la opinion ke nia popolo estas unu el la popoloj de la origino de Sudmara Insularo, dum aliaj kredas nian popolon kiel devenantan el korea origino. Estas strange tamen, ke la japanoj vivas en domoj tipaj de la Sudmara Insularo kaj ke ili parolas lingvon de la sistemo de korea lingvo. Tial, niaj scienculoj trovas ĉiam malfacilaĵon en la koincidigo de siaj respektivaj teorioj ĉe tiuj ĉi evidente kontraŭaj punktoj. Eĉ se al ni estus permesata la hipotezo, ke tiuj du malsamaj rasoj el Koreujo kaj el la Suda Maro, per sia intermiksiĝo, aperigis unu popolon de nova raso, estas ankoraŭ tre malfacile klarigi en ia ajn konvinka maniero, sub kiaj kondiĉoj tiel klarega diferenco povis esti konservita en la punktoj de lingvo kaj vivmaniero,—unu de la nordo kaj la alia de la sudo.

### Origino de la Raso

Tio, kion mi donas tie ĉi kiel danacajon de mia vojaĝeto al Hjuga, vere solvas, al mi ŝajnas, tiun ĉi malfacilan demandon. Mi povus komenci per mia konkludo en tiu ĉi okazo kiel jene:

La origino de Japano raso estas miksitaj raso naskita

el viroj de Hjuga aŭ gentoj de Sudmara Insularo kiel patroj kaj el virinoj de Izumo aŭ korea gento kiel patrinoj.

Por klarigi tion, kion mi diris supre, mi kuraĝas doni jenajn kialojn:—

(1) Ĉe la piedo de la Monto Takaĉiho en la provinco de Hjuga proksima de la marbordo, oni trovas malgrandan insulon nomatan Aĉŝima (Verda Insulo) kie estas trovataj en prospera kreskado arboj nomataj „Biro“ (Livistona Chinensis), genro de tropika palmarbo. Tiu ĉi kreskaĵo estis alportita tien ĉi iam de flankenirantaj marfluoj de tropiko al kiu ĝi apartenis. Se tio estas vera, estas do facile supozeble ke animaloj aŭ homoj flosantaj sur tiuj marfluoj sendube sekvis la saman vojon

(2) Ni ne devas supozi ke ia popolo de tiuj malproksimaj epokoj, riskante sian danĝeron sur la maro por migrado aŭ iu alia celo, akompanus siajn familianojn kiel modernaj migrantoj en granda vaporiŝipo. Tiuj antikvaj migrantoj aŭ tiuj, kiuj hazardis atingi alian landon per vagveturado surmara, estis neniu aliaj ol kuraĝaj aventuro-serĉantoj kiuj prenis siajn malgrandajn kanotojn por veturi sur nigra marfluo.

(3) Estas supozeble ke tiuj, kiuj atingis malproksiman landon en tia maniero, estis plejparte viroj en



plenaĝo kaj ke inter ili certe ne troviĝis virinoj riskantaj tian aventuron. Kvankam tiu ĉi konjekto povus esti atakata de ĉiuj kritikistoj kiel tro dogmeca opinio, tamen ĝi estas almenaŭ ne tiel malproksima de la vero, se ni konsiderus bone pri la kondiĉoj de vivo kaj civilizacio akiritaj en tiu tempo. Post ilia alveno al fremda marbordo la unua objekto postulita de ili estis manĝaĵoj sendube. Trovinte rifuĝejon en monta kavaĵo kiel rimedon de memprotektado, la dua objekto, kiun ili serĉis, estis sendube virinoj, ĉar estas ne malfacile imagi tion en la okazo de la viroj en juna vikleco, kiel ili sendube estis.

(4) Kiam ili komencis observi ĉirkaŭ si, ili ekvidis virinojn pli blankajn ol tiuj en tropikaj landoj. Tiuj virinoj estis tamen patrinoj aŭ edzinoj aŭ flinoj de aliaj, neniu el kiuj ne devis facile fali en iliajn manojn. (Estas konjektite, ke popolo de korea gento estis jam vivanta en kelkaj lokoj en Kiŭŝu, kiu atingis tiam iom progresintan gradon de civilizita vivo.)

(5) Sub tiaj cirkonstancoj estis okazigita perforta rabado de virinoj kiel ni ofte trovas ĝiajn ekzemplojn en la okazo de ĉiuj popoloj en ilia malnova historio Tian sekvis do malpaco kaj batalo kaj el tio rezultis la ekstermado de viroj de korea gento. Ĉar en tiu tempo ne troviĝis leĝo de monogamio, la viroj havis sendube

multajn edzinojn kaj la naskprocento inter tiuj popoloj estis tiel granda kiel dekvin cent en unu tago, laŭ la vortoj de la diino Izanagi-no-Mikoto, kiujn oni ofte citas. En ĉiu okazo tia estis la procezo, kiun ĉiu primitiva raso sekvis ĉe sia disvolvigo; kaj tiu de Japana raso ŝajnas esti neniel ĝia escepto. Ili komencis kreski sur tiu ĉi nova tero, per la maniero, ke viroj el la sudo interedziĝas kun virinoj el la nordo.

(6) Nun, ni renkontas jenajn demandojn: Kian specon de domo tiu popolo konstruis? Kian specon de lingvo ili uzis aŭ adaptis por paroli, kiam viroj kaj virinoj de tiuj malsamaj rasoj intermiksitaĵ unu kun la alia fondis sian novan socion?

### Domoj kaj Lingvo

Ni scias ke eŭropanoj parolas pri „Vater Land“ (Patra Lando) kaj „Mutter Sprache“ (Patrina Lingvo). Tiuj vortoj signifas respektive la landon de prapatroj kaj la lingvon de lia propra lando. Sed rigardante pli profunden ni ekkonas, ke tiuj esprimoj signifas ke tio, kio koncernas al la tero, estas metata sub zorgo de patroj, dum tio, kio koncernas al lingvo, estas metata sub zorgo de patrinoj; kaj ke la viroj prenas sur sin la laboron provizi manĝaĵojn kaj rifuĝejon, sin okupante per farmado kaj domkonstruado, dum la virinoj prizorgas



kaj edukas siajn infanojn per sia propra lingvo. Tio signifas, ke en la plej fruaj tagoj de Japana popolo la viroj aŭ patroj heredigis al siaj posteuloj metodojn de agrikulturo kaj domkonstruado, aŭ ĝeneralan manieron de vivo praktikatan en la landoj de Suda Maro, dum la virinoj aŭ patrinoj instruis al siaj infanoj paroli lingvon alportitan trans la kanalon.

La supre dirita teorio de suda edzo kaj norda edzino ŝajnus iel sofismema ĉe la unua rigardo; sed oni trovos ĝin pest plua konsiderado kontraŭa. En la kazo de Kolumbo aŭ Jamada-Nagamasa aŭ aliaj esplorantoj de antikvaj tempoj, ni konstante trovas ekzemplojn de tute sama karaktero. Mi kredas, ke tiu ĉi interpreto mia, kvankam simpla kaj facila, solvas la longtempan demandon pri la origino de Japana raso.

(7) Por fari tie ĉi esplorojn pri historiaj bazoj, mi volas citi jenajn paragrafojn de la unua paĝo de nia „Kojiki“, la plej antikva kroniko de Japana raso:

„La nomoj de la dioj, kiuj estis naskitaj en Takamagahara aŭ la Regno de Ĉielo, kiam Ĉielo kaj Tero komenciĝis, estis Ameno-Minaka-Nuŝi-no-Kami, Takami-musubi-no-Kami kaj Kamimusubi-no-Kami. Tiuj tri dioj estis ĉiuj needziĝintaj kaj kaŝis siajn personojn.“

### La Fraŭlo-dioj

Ne nur tiuj tri dioj sed ankoraŭ kvar aliaj sekvintaj

ilin estis ankaŭ klare diritaj kiel needziĝintaj.

En la kosma tradicio de la okcidento, ni havas Adamon kaj Evon kiel la prapatrojn de la homaro; kaj en la ĥina libro de „Enanĵi“, kiu estas pensata de kelkaj kiel la fonto de nia „Kojiki“, ni havas ankaŭ teorion de unu paro da dioj kiel la unua de la homa raso. En nia „Kojiki“, estas skribite tamen ke estis sep fraŭlo-dioj antaŭ la ekapero de la unua paro de dioj. Tiuj needziĝintaj dioj povus esti konsideritaj kiel estajj sen graveco kaj de la vidpunkto de rasa kreskiĝo, povus esti tute forlasitaj el la libro necitate en ĝi. Sed la fakto, ke la ekzisto de tiuj dioj estis enskribita en la dokumento, eĉ kun iliaj nomoj klare cititaj, estas evidenta pruvo de ilia reala ekzisto. La supre dirita fakto estis transrakontita de la tagoj de pratempo, kaj poste estis fidele rerakontita de Hieda-no-Are kaj estis fidele skribita de Oono-Jasumaro kiel la unua kroniko de nia popolo.

Oni devas ĉi tie konjekti ke tiuj sep fraŭlo-dioj estis tiuj kuraĝaj aventuruloj, kiuj venis flusante sur la marfluoj de la tropika maro, kiel mi menciis sub la antaŭa (2). Mi ankaŭ havas tiun opinion ke tiuj dioj, kiuj havis nenium edzinon por esti metata sur historia dokumento, vivis ĝuste sub la samaj kondiĉoj de vivo kiel mi menciis sub (5).



(8) Nun ni havas Izanagi-no-Mikoto kaj Izanami-no-Mikoto, la unuajn dioparojn de Japana popolo. Aparte de tiuj multaj mitaj rakontoj donataj pri ili, kaj observante nur de la vidpunkto de rasa historio, ni vidas ke jarojn poste ili militvenkis la landon kaj ke la diino Izanami folasis sian kunulon kiel rezulto de malakordo inter ili kaj forkuris al la provinco de Izumo. De tio ĉi, estas sendangere supozeble ke tiu diino estis el Izumo- aŭ korea gento. Kiel konsekvenco de la supredirita okazintaĵo, al ni estas rakontite, la vira dio Izanagi faris ekspedicion al la provinco de Izumo por repreni sian antaŭan kunulinon. En la batalo ĉe Hirasaka en la provinco de Izumo li perdis la batalon, kaj laŭ la mito, li forkuris al Taĉibana-no-Odono-Aŭagihara, en la provinco de Hjuga, Ĉikuŝi; de tio ĉi ni povas supozi ke li estis el Hiuga- aŭ Sudmara gento. De la ekzemplo de tiuj ĉi du gedioj ni estas kondukataj al la konkludo ke geedziĝo de sudaj viroj kun nordaj virinoj estis ĝenerala regulo inter la dioj de tiuj antikvaj tempoj.

### Virinseksaj nomoj

(9) Ni povas ankoraŭ trovi alian interesan punkton en „Kojiki.“ Ĝi koncernas al la nomado de diinoj,

venintaj rekte post la sep fraŭlo-dioj supre cititaj. De unua diino Imo-Suhijini-no-Kami ĝis la kvina diino, Imo-Izanami-no-Kami, iliaj nomoj estas kunigitaj kun la prefikso „Imo“ senescepte; kaj en la nomoj de diinoj kaj en tiuj de lokoj kun nomoj virinseksaj, kiuj sekvas la menciitajn diinojn, ni trovas la vorton „Hime“ sufiksitan, kiu estas signo de virinsekso, kiel regulo. Ankoraŭ poste, ni renkontas la nomon „Imo-Haja-Akicu-Hime-no-Kami,“ en kiu ambaŭ „Imo“ kaj „Hime“ estas metataj ĉe la komenco kaj fino de la nomo respektive. Kaj ankoraŭ poste ni trovas ke la prefiksado de „Imo“ estas forlasita; dum la uzado de la sufikso „Hime“ restas ĝis la nuna tempo. Tiu ĉi fakto donas tre interesan problemon esplorindan de la vidpunkto de kompara filologio.

En eŭropaj lingvoj estas kutime meti inan signon antaŭ nomo de virina sekso kiel „Miss“ aŭ „Mrs“ estas uzataj en angla lingvo, kiel ekzemple. Tia estas ankaŭ la okazo ĉe lingvoj de Sudmara sistemo (Vidu „A Comparative Study of the Melanesian Island languages,“ de S. H. Ray). Sed en la japana lingvo aŭ lingvo de korea sistemo la uzado de sufikso kiel „Hime“ estas vidata en praktiko; sed neniam vidata la ekzemplo de prefiksado de ia ajn vorto signanta la inan sekson.



Vidante, ke inaj nomoj estas ĝenerale formataj per aldonado de ia speco de nomo aŭ vorto esprimanta la inan sekson al la komenco aŭ la fino de la nomo de la familio al kiu ŝi apartenas, aŭ de la viro al kiu ŝi estas edzinigita, mi estas kondukata al tiu penso, ke, dum la influo de Sudmaro-elementoj estis pli supera—tio estas, en la plej frua periodo de ilia historio, la vorto „Imo“ estis metata antaŭ ina nomo laŭ la maniero de Sudmaraj lingvoj, kiel konstante vidataj en la nomoj de la unuaj kvin diinoj. Kun la plimultiĝo de iliaj posteuloj edukitaj por paroli lingvon de korea sistemo, la kutimo de prefiksado de „Imo“ iom post iom malaperis el la uzado, kaj samtempe anstataŭigita per tiu de sufiksado de „Hime.“ Alvenante al la nomo „Imo-Haja-Akicu-Hime-no-Kami,“ ni vidas kompromison inter tiuj du kutimoj montrantan la lastan postsignon de la suda uzmaniero en kroniko. La historia fazo de tiu ĉi ŝanĝo vidata en virinseksaj nomoj meritas atenton kaj estas certe interesa kiel montranta la fakton de suda edzo kaj norda edzino kaj la kreskadon kaj mal-kreskadon de iliaj respektivaj influoj en ilia socio. Alvenante al ĉitia lumo de vereco per legado de „Kojiki,“ mi estas profunde impresita de la aŭtoreco de tiu libro, kiu neniam volis senzorge uzi ĉe unu vorton.

(10) Sub tiuj kondiĉoj de la socio formita sur la bazo de suda edzo kaj norda edzino, kiel cititaj supre, la Izumo-gento devis provizi edzinojn kiel tributon al tiuj el la sudo; kaj tia stato de aferoj, almenaŭ al mi ŝajnas versimila, daŭris dum sufiĉe longa periodo. Tio ĉi ankaŭ ŝajnas klarigi samtempe pri tio ke la dio Okuni-Nuŝi-no-Mikoto, kiu reprezentas la ĉefon de la Izumo-gento estas rigardata kaj adorata kiel dio de ĝeedziĝo.

(11) Konkludo: Kiam ni trovas, ke la delok'ĝo aŭ migrado de marveturaj gentoj en al tagiĝo de civilizacio, ĝenerale sekvas la fluojn de martaĵo, kaj ke la procezo de plimultiĝo, kiun prenis la homaro, ankaŭ sekvas la direktojn de la natura instinkto de animalaj pasioj; kaj kiam ni alrigardas en la historion kaj interpretas ĝian signifon en la lumo de tiuj pensoj, mi estas kondukata al tiu konkludo, ke la origino de Japana popolo estas intermiksita raso naskita el la ĝeedziĝo inter viroj de suda gento kaj virinoj de norda gento.

Supre estas la resumo de la pensoj tre malnovaj eble sed tute freŝaj, kiujn mi formis dum mia vojaĝo al la insulego Kiuŝu kaj kiujn mi volas nun donaci kiel modestan donacaĵon de tiu interesa vojaĝo.



culoj subtenas la opinion ke Ainoj pro siaj vangharoj kaj haroriĉa korpo devas esti arĵoj, la japanoj estas tial pli malpli arĵoj, tio estas el la „blanka gento de homaro.“ La inciterna demando de „blanka aŭ flava,“ rilatigita, sen ia ajn kialo, kun la ideo de supereco aŭ malsupereco, ŝajnas esti ludinta multajn strangajn trompojn kontraŭ tre seriozaj homoj. Ĝi puŝis ilin al tiu ĉi kredo, ke la japanoj iam sendube vivis ie en Persujo, Hindujo, aŭ ie aliloke en Azio, kie nun iu nacio de la „blanka raso“ estas lokita. Ĉiuj tiuj teorioj ŝajnas reveni al la penso, ke la japanoj devas esti tiel blankaj kiel la blankaj nacioj, penso kiu havas nenian rilaton kun la demando de origino, sed estas dezirata pro iu alia motivo, eble por la problemo de enmigrado al Usono. Ankoraŭ pli maltaŭga en tiu ĉi okazo estas ideoj devenintaj el ŝatsento por la kristana religio. La ideo intenci starigi iun rilaton inter la japana nacio kaj la malnovaj hebreoj povas naskiĝi nur ĉe tiuj, kiuj deziras esti kiel eble proksimaj al la origina fonto de kristanismo. Simileco en muziko aŭ en muzikaj instrumentoj—ĉe tia simileco povus esti pruvita—povas kontribui nenion al la diskuto pri la origino de japana lingvo aŭ tiu de japana antropologio.

Rememorante ĉiujn pli malpli fantaziajn kaj nejustajn

## KOMENTARIO

de D-ro G. J. Ramstedt

[Sekvante la publikigon de la supre citita artikolo en la „Japan Advertiser“, D-ro G. J. Ramstedt, tiam *Chargé d’Affaires de Finlando* ĉe Tokio kaj *Profesoro de Uralo-Altaikaj lingvoj* ĉe la *Universitato de Helsinko* Finlando, kontribuis artikolon al la sama ĵurnalo, kiu estis aprobo de miaj opinioj. La aŭtoro de tiu ĉi libreto deziras ĉanke rekonii sian ŝuldecon al tiu ĉi finlanda scienculo de internacia prestiĝo por la bonkora permeso kiun li donis de la represado de tiu papero preparolita en la „Japan Advertiser“ de Oktobro 15, 1929.]

La artikolo de D-ro Ramstedt kuras kiel jene:

La demando de la origino de Japana nacio estas efektive unu el la plej interesaj ne nur de lingvistika sed ankaŭ de antropologia vidpunktoj. Mi provis sekvi la diskuton pri ĝi kaj konatiĝi kun publikigita materialo, sed mi devas konfesi ke anstataŭ konvinkaj argumentoj mi renkontiĝis kun surprize fantaziaj hipotezoj kaj tendencoj.

La afero estas, ke kelkaj tute neatenditaj elementoj estas miksitaj en la diskuto. Kelkfoje tiuj estas bazitaj sur rasa malamikeco, kelkfoje sur naciista fiereco kaj kelkfoje sur konfuzitaj religiaj songoj. Kelkaj pretendas, ke, ĉar la nuntempaj japanoj enhavas grandan amason da Ainc-prapatroj kaj ĉar kelkaj germanaj scien-



teoriojn, mi lastatempe legis kun la plej granda plezuro la mallongan artikolon de S-ro M. Tokieda „Pri la origino de Japana popolo.“ La ĉefa enhavo de lia artikolo koincidas tiel proksime kun la vero, kiun mi arde deziras trafi, ke mi estas preta enskribi mian nomon sub lia. Lia „simpla teorio,“ kiel li nomas ĝin, estas agrabla en la punkto de komuna senco kaj logika justeco, kaj pli scienca ol la plejparto el longaj artikoloj kiujn mi legis antaŭe, artikoloj skribitaj de scienculoj kiel Whymant, Labberton, k. t. p. . . . La distingado inter la originoj de domoj kaj paroloj estas malofte konservata kaj la distingado inter la originoj de domoj kaj lingvoj estas ĝenerale malzorgataj. La klarigoj de S-ro Tokieda estas klaraj kaj evitas miksiĝon de tio, kio devas esti metata aparte.

La origino de la lingvo kaj tiu de la popolo estas, kompreneble, du diferencaj aferoj. La negroj en la Usono, kiuj uzas anglan lingvon, estas certe ne el angla origino. La turkoj en Turkujo parolas lingvon preskaŭ nur dialekte diferenca de la lingvo de kirgisoj en Okcidenta Turkestano kaj similan ankaŭ al la lingvo de jakutoj en Siberio, sed kiam ni vidas turkon, kirgison kaj jakuton, ni trovas pli grandajn korpajn diferencojn ol tiujn kiujn, oni povas trovi inter svedo, greko, kaj cigano.

La miksiĝo de sango, la kreiĝo de novaj nacioj daŭras okazi kaj ĉiam okazis en pli aŭ malpli granda amplekso. Ni bone povas kompreni, ke la turkoj de la Osmana Imperio estas korpe pli proksimaj al eŭropanoj ol siaj antikvaj parencoj, la kirgisoj kaj jakutoj. La turkoj estis batalistoj kaj rabprenis siajn edzinojn en Kaŭkazio aŭ Grekujo aŭ Bulgarujo kaj per la rajto de la konkerantoj ili prenis kiel sian rabajon la p'ej belajn knabinojn kiujn ili povis trovi. La lingvo restis kaj disvolviĝis sendepende de rasaj kaj gcedziĝaj rilatoj kaj la hodiaŭa malegaleco estas la konsekvenco de la tutaj.

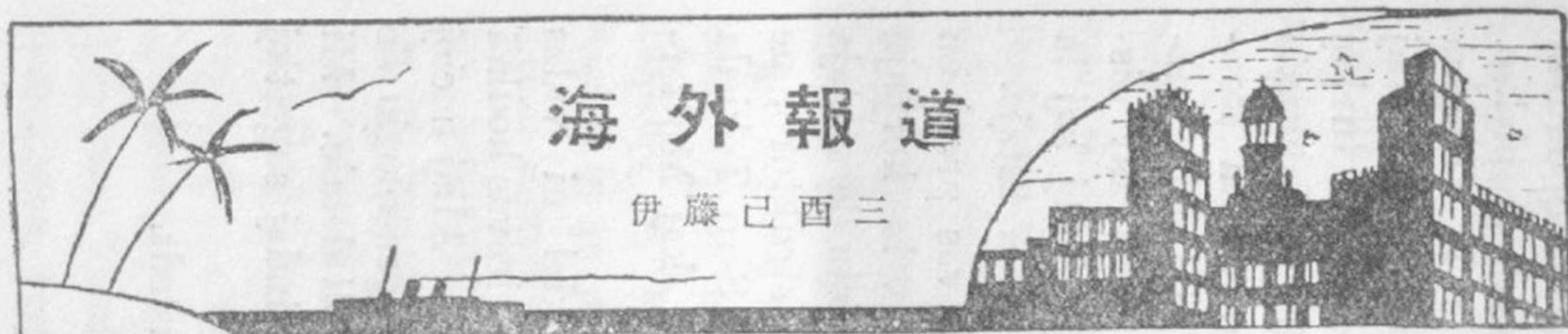
La problemo pri japanoj, en kiu oni devas preni en konsideron la fruajn loĝantojn de Japanujo, la korpajn trajtojn de la nuntempa loĝantaro, la loĝejojn de malaja tipo, la lingvojn de la korea aŭ altaika strukturo, ne povas esti solvata sen la vidpunkto, kiun S-ro Tokieda esprimas per la diferenco de Vaterland kaj Mutter-sprache.

Sur tiuj insuloj de Japanujo elkreskis kiel ni vidas nun distingaj nacio, regno, civilizacio, kiuj ricevas hodiaŭ multan atenton en la historio de la mondo. Aliaj nacioj havas siajn fratojn kaj fratinojn, sed la genealogio de Japana nacio indas ankoraŭ esti studata pli detale. Mi esperas ke la simplaj sed tamen tre aprobindaj sugestioj malfermos la vojon por tiaj studoj.

G. J. Ramstedt.

Tokio, Oktobro 10, 1929.





## 1930 年上半期の回顧

昨年末より本年にかけ我々は数名の最も知名の同志を失った。即ち Marie Hankel 女史、Sebert, B. de Courtenay, F. de Ménil の諸氏である。一方 Cart 教授は七十五歳の誕生を迎へて尙 nia movado に努力してゐられる。

エスペラント普及上に最も大なる功獻をなしたる人に Andreo Ĉe, T. Morariu, H. Seppik の諸氏あり、北歐に於ける活躍は實に目覺しいものがあつた。その結果は Ĉe-Instituto の設立となり更に大規模に世界を Ĉe-metodo を以て綠化せんとしてゐる。これによつて我々の最後の勝利に到る時日は著しく短縮せられる事とならう。

瑞典政府の補助金、リヒテンシュタイン公國の繪葉書、ブルガリヤ遞信局の好意、エストニア警官に對する講習等何れもエスペラントの勢力が次第に擴りつゝある事を示してゐる。

又各國では盛にエスペラント大會が開催され運動の方針を決定し同時に宣傳をなし歩調を揃へて歩着々目的に向つて進行してゐる。

大體見渡したところ以上の如く一時の停滯もなく好調に進んでゐる。世界の人々は既にエスペラントとは何であるかを知つてゐる、好意を持つてゐる、唯彼等は蟲が好いので、世界中にエスペラントが通用すれば、專問とする學問がエスペラントのみによつて研究される時には自分も學ぶといふ考へを持つてゐる。我々はこの誤つた考へを正し、一方益々エスペラントの實用的方面に進出する事に最も多く努力すべきである。

## 國際補助語協會研究會の決議

米國に於ける國際補助語協會 (International Auxiliary Language Association) は3月20日より4月2日まで Genevo に言語研究會議を催し、各國際語の代表を招待した。集つた人は Otto Jespersen, S. Anerbach, E. B. Babcock, Charles Bally, W. E. Collinson, A. Debrunner, H. S. Eaton, O. Funke, E.

Hermonn, Serge Karcvski, A. V. Morris, G. Peano, W. Perrenoud P. B. Potter, René de Saussure, A. Sechehaye, P. Stoyan, E. de Wahl, R. Zeidler の諸氏で、Esperanto, Novial, Occidental, Nov-Esperanto, Interlingua 及他に一つの六國際語が代表せられ、次の決議をなした。

1) 本會議にて代表せられたる六國際語は多く共通點を有してゐる、従つて、熟練家は話に於ても筆記に於ても大なる困難なくして了解し得る事を認む。

2) 簡單、政治的中立にして、國民間の關係を容易ならしむるべき萬國補助語の必要を認む。

3) 凡ての案は或る獨自の特長を有するが何れも完全を誇る事は出来ない。従つて將來の國際語を決定する如き決議は尙早であると思はれる。

4) 言語學者及補助語論者の協力の絶えざる發展を望み、この協力と IALA の創めたる大なる仕事より来る最善の結果を期待する。

5) 式の區別なき補助語論者間の出來得限り良き調和と、すべてに共通なる問題の研究に於ける協同を望ましいと考へる。もし、この協同が同一戰線を作るに到るとすれば、國際語運動は大いに利益を受け決定的採用の時は近附く事にならう。

## 萬國優生學會議の公用語

9月1日より20日まで Wien に於て開かれる萬國優生學聯盟第四回大會に於ては報告及論議に英、獨、佛語と並んでエスペラントも公用語として採用せられる事になつた。プログラムは純科學的のもので既に多數の著名なる報告者が決定せられてゐる。

## 捕虜エスペラント運動史の編纂

ハンガリー一流の出版所 Atheneum は捕虜生活史なる大部の書籍を出版する事になり、その一部分に捕虜兵中に於けるエスペラント運動史を入れるべく Julio Baghy 氏にその編纂を依頼して來た。

この運動史を完全ならしむる爲に Baghy



氏は世界の同運命に陥れる同志に次の如き質問を提出して回答を求める事になつた。

1. 捕虜收容所の名(國、市)。2. 運動の起りたる時。3. 教師の名及國籍。4. 會の存否。5. 捕虜により編輯せられたる雜誌の存否(時、狀態)。6. 捕虜同志は敵國同志と連絡ありしや。7. 運動は如何なる實用的役目をなしたか。8. 最も面白き逸話。9. 當時運動中に宗教的或は政治的傾向ありしや。10. 捕虜エスペランティストの數。

回答は Julo Baghy, Rottenbiller utca 66-1-20, Budapest 7, Hungarujo 宛に成可く早く送られ度し。

### エスペラントトーキーの成功

英國 Birmingham の同志の希望により Famous-Lasky Filmserv では Paramount のエスペラントトーキーを一流の映畫館 The Futurist に於て公開した。

5月11日、The Futurist の内外は綠星旗やポスターによつて飾られ 1500 の觀衆が席を占めた。エスペラントトーキーは二回映寫されその間に英語トーキー、La Espero, La Samideana Trinkanto の音樂があつた。觀衆の大部分は neesperantisto なので I. H. Wright 氏は先づこの filmo の大體、エスペラント運動の意義を説明した。

丁抹の宣傳映畫 數年前丁抹政府は La Granda Danmarko-filmo と題する宣傳映畫を作つたが今年二月に外務省は Kopenhagen のエスペラント會長 F. Noll に對し會議を開くべく交渉して來た。この會議は前記 filmo のエスペラント譯及外國エスペラント會への貸與に関するもので種々の條件に就き協議をなした。その結果既に序及タイトルのエス譯は出來上り間もなく外國へ送出す事が出来るやうになつた。

この filmo は二時間に亘る長いもので丁抹の風景農工業國民生活等を撮影したものである。この企ては外務省自身の發案によるもので丁抹に於てエスペラントが公に認められた最初である。

### Zamenhofa Strato

波蘭 Warszawa の Dzika 街を Zamenhof 街と改稱せしめんとする運動は前に本欄にて報告した通りであるが、この運動を更に促進する爲に Akademia Esperantista Rondo は I. Dratwer 氏の發案によつて直接 Warszawa 市民の意向を尋ねる事となり、市當局に對す

る請願と成年市民の署名を記入すべきピラを數千枚印刷し、市民の同意の署名を求める事にした。新聞もその記事を載せて後援した。又多數の職業的及文化的團體を有する K. A. M. K. A. も特に會員に通牒を發して署名を求めた。

約2ヶ月の募集の後代表者は市長を訪ひ625枚 23522 の署名と共に請願書を提出し、市長は快く之を受理した。この結果が如何になるかは問もなく分る事であらう。

### 各國大會

飛行機で宣傳 6月28日29日兩日 Linz にて開かれる第9國奧太利エスペラント大會には Vess Wannek 氏操縦の飛行機にて最も尖端的なる宣傳が行はれる。飛行機の翼には宣傳文が書かれて地上から眺められる。又 Pöstlingberg 山に大會參加者が登る時には Hans Wannek 氏が無發動飛行機にて山の周圍を飛び廻るこの事である。其他ラヂオ、繪葉書、遠足等により大々的宣傳をなす。

第19回獨逸エスペラント大會 5月6日より日まで Dresden に於て行はれる。停車場及受付所たるホテル Europahof には綠星旗驛り參加者を迎へた。7日午前は同市で開催中の國際衛生博覽會を見物した。案内は博覽會役員なる同志 Schramm 氏であつた。午後は博覽會の音樂堂にて獨逸教員エスペラント聯盟の總會が開かれ各種報告後 Bennemann 氏は Pedagogia Terminologio に関して講演をなし喝采を得た。その後小學兒童の學藝會あり、參加者の注目を惹いた。同日晚は salut-vespero で互に舊交を温めその間に女學生の舞踊、Wetekamp 氏作曲の新 Espero の紹介等の餘興あり。8日午前40名の同志は Marie Hankel 女史の墓を訪れ花環を捧げてこの先驅者の靈を慰めた。同日開會式が行はれ 600名の出席者があつた。午後3時より協議會に移る。9日は第二協議會、大會閉會式、市内巡遊、10日は遠足で大會を終了した。

第21回英國エスペラント大會 Nottingham に於て6月8日、9日開催さる。數ヶ國より參加者あり D-ro E. Privat も出席した。7日の普及講演會には Privat 氏は英語で演説をなし、之に續いて Merchant, Collinson 兩氏の講演があつた。8日は諸所へ遠足をなし晝食の後萬國大會々長 B. E. Long 氏は大會準備の報告をなした。9日は郊外散歩をなし、午後大會舞踏會を開く、數多の奏樂の間に Paramount のエスペラントトーキーを映寫した。



……8月2, 3, 4日——金澤市に於て……

## 注意

- 大會行 Karavano.

列車は上野7時20分發金澤翌朝7時40分着の急行です、汽車賃急行券共6圓20錢。切符は各自お買ひ下さい。

その綱領は 1. Esp. の徹底的修得實用化及び宣傳普及。 2. プロレタリアート解放の一武器としての esp. の適用。 3. プロレタリ



ア諸團體支持。4. 國語及び國語に依るブルジョア的教育の批判及び闘争。5. 日本プロレタリアエスペラント運動の全國的統一促進。

更に PEA をその組織に於いて労働者部、學生部、一般部の3に分ち、各部にわ地域別職場別による rondo を屬せしめ、從來の esp. 運動に缺けていた組織を特に緊密ならしめ、強固なる團結を以て工場農村進歩的インテリゲンチアに esp. を宣傳普及せんとする。

(高木弘氏報)

### ★「プロ科學」主催エス講習會

左翼的諸科學理論の研究團體たるプロレタ

リア研究所でわ去年と同じく英獨露佛支エスの夏期大學を神田普及英語學校に7月12日から一ヶ月間開催した。Esp. 部わ上級初級に分ち、初級わ新たに編纂した教科書により、上級わ Marko, Lenin 集 Danco de skeletoj (秋田雨雀氏講義) 各 klaso 20 名づゝ。その他特に esp. 部わ新宿二葉保育園(出席者 30 名)、7月21日より本所帝大セツツルメント、品川に於いて初等講習を持つ豫定。

新たに創立された無産者エスペラント協會(PEA)わ全員を擧げて教授に事務に手を盡している。この講習によつて獲得された新しい esp-istoj わ PEA の指導の下に直ちに rondo を編成して技術修得その他の研究を行う筈。



Okaze de la ekspozicio en Seikei Gimnazio.

成蹊エス會校庭に於て。中央アレキサンダー嬢(左)と丘博士(右)

### 東京

成蹊高校 昨年6月に第一回展覽會を開いた成蹊エス會は6月15日(日)第二回の會を校内學藝會に際して開催した。會場は前日全成蹊エスペランティストの努力により、特にその中の數人は徹夜して飾付に努めた結果、第一室には中央に Esperanta Arbo を立て、周圍に澤山の Esperantaĵo、第二室には „Per Esperanto alvoku al la mondo“ 號に跨つた學生が地球を目指して飛行して行く大規模な電燈付の飾付を作つて人目を惹いた。一方講堂では13時より14時半までエスペラント講演會が次のプログラムで行はれた。

- 1) 開會の辭(エス語に就いて) 文三、石坂晃一
- 2) Espero 成蹊同志一同
- 3) 國際時代 丘淺次郎博士

- 4) Periodo de „Ŝoua“ F-ino Alexander 通譯 尋四、金子道夫
- 5) Tagiĝo, Migra Kanto 成蹊同志一同
- 6) 閉會の辭 文三、石坂晃一

かくて盛會裡に學藝會終り、會場の後片付け後約40名の若い同志は gastoj, gradigintoj を加へて慰勞懇親會を開き最後の gaja atmosfero の内に時を過し2時半散會。

★歐羅巴留學の爲に洋行せられる川原次吉郎氏を送別、留學より歸朝せられた丘正通氏を歓迎、慶應卒業安田貯蓄銀行へ入られた松本清彦氏及今年四月都下諸校へ入學せられたる同志を祝賀の爲に學會は6月24日午後7時東京基督教青年會館に於て會合を催す。川原氏の挨拶、丘氏の歸朝談、松本其他の諸氏の挨拶あり、次に永井氏のマンドリン獨奏秋田雨雀氏のお話があつて、9時散會した。



★東京藥學エスペランチスト懇話會 6月27日東京基督教青年會館に於て開催。出席者19名。6時半食卓に付き、三雲氏より昨年大會藥學分科會決議の其後の経過、波多野氏よりHermesa Rondetoの事業に就き報告あり、次に今年の大會に於る藥學分科會成立の爲に出席者に維持者となつて貰ふ事、次回幹事として服部教授、塚本氏、伊藤氏を推す。更に山田武一、塚本兩氏の漫談あり9時半散會となる。

**京都** 京都學生エスペランチスト聯盟及び平安エスペラント會聯合で毎月15日に百萬遍停留所前かぎや茶寮で例會を開いてゐる。會する者15—16人、毎月一、二のエス語講演會がある例になつてゐるが6月

1時Espero合唱により開會。駒見氏の開會の辭に次ぎ各會代表の挨拶あり、小寺廉吉氏を議長に推して協議會に移る。協議事項、1)年1—2回聯盟誌を發行する事、2)第6回大會は金澤市にて舉行。その後市中見物しつゝ晚餐會場に到り晚餐を終る。午後7時半より佛教會堂に於て「緑の夕」を催す。來聴者200名餘。

エスペラントに就いて——奈良榮二氏、エスペラントの二面——小寺廉吉氏、エスペラント漫談——深井正淑氏。

最後にR.O.誌を通じて御子息の御病氣にも拘らず御參加、色々御指導下さつた小寺氏及池田氏に厚く御禮申し上げます。

(聞香氏報)



Anoj de Seikei

Esp-Grupo en la

ekspoziciejo.

展覽會場に於ける成  
蹊エス會員及 gastoj

は矢戸圭一君の「除蟲菊に就いて」及近藤國臣君の「„Proverbaro Esperanta“に就いて」があつた。7月は一木誠也君其他一名の講演がある筈、一般の來會を望む。

★昨年11月の初等講習後に生れた市民の「平安エスペラント會」は其後益々基礎を固め目下毎木曜の晩カニヤ書店で輪讀、講習をやつてゐるが(Fundamenta Krestomatioその他)毎回出席者15—20名を越してゐる。又同會では毎月初等講習も開き普及に努めてゐる。  
★カニヤ書店から出てゐる月刊雜誌「我等の化學」は毎月1—2頁をエス文欄に割いてゐるが諸兄の寄稿を希望してゐる由。

**富山** 第5回北陸エス大會 6月15日富山市に於て開かる。金澤より6名高岡より9名富山13名の參加者あり。午後

### 三重縣

8月下旬三重縣紀北實賤女學校校舍新築落成記念展覽會を開催し、同時にエスペラント展を開き一般民衆に宣傳する豫定。故に全国各地のエス會及個人同志より雜誌、繪葉書等の御寄贈及御貸與を乞ふ事の事。宛名は三重縣紀伊長島町三重縣紀北實賤女學校エスペラント部。

### ★第7回九州エスペランチスト聯盟大會★

場 所 大分縣中津市  
日 程 第一日 午後7時より講演會  
第二日 會議、遠足、晚餐會  
第三日 Postkongreso 別府へ  
事務所 大分縣中津市金谷本町  
(電153) 石丸 鎮雄



## 福岡

福岡エス俱樂部 6月3日を以つて從來の初等講習を終了し、自來江口氏宅にて毎週水曜夜 Salome 講習を始む。尙從來の會員による水曜の輪講は Nuntempaj Rakontoj を用ひ、講習終了後は新舊會員を交へて一、二時間會話練習をなす。

6月15日の日曜を利用して新舊會員の親睦を計る爲長垂に ekskurso を催す。折柄の梅雨期で uragano に見舞はれ乍ら一行11名元氣よく出掛け青松園の屋内にて interparolado, ludado に打興じ5時過ぎ歸へつた。

## 長崎

長崎エス俱樂部 5月30日初等講習を終り午後8時より俱樂部にて茶話會を開く。受講者18名に植田教授、辻、秦、山佐、富松氏加はり感想談を聴く。引續き中等講習 (Zamenhof, Ekzercaro) を帆足氏指導毎週金曜日に決す。

6月7日晚餐會。28名出席。木下税關検査課長夫人同伴來會。淺田博士も同様、淺田夫人は此の日初めて Esperanta parolado を試

みられ、發音の奇麗さには一同感嘆す。

## 臺北

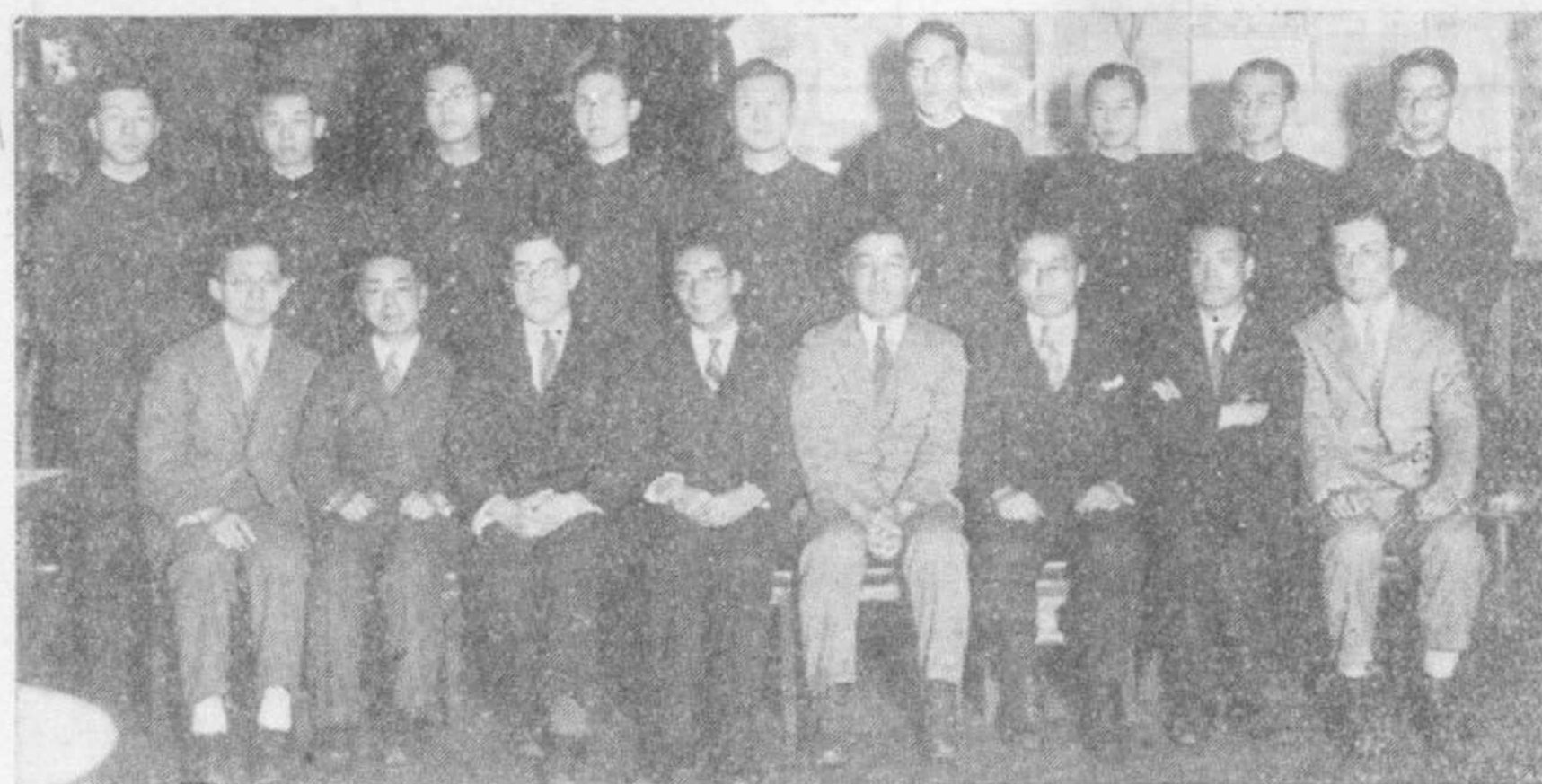
臺北エス會 會員吉良義文氏今回殖産局特産課技師に榮進せられたので前途を祝福するお茶の會を6月13日まる福喫茶店にて開催した。

3月15日市内済美會館にて開催せられた希望社友相互修養會の席上で杉本會長は國際語の必要、希望運動とエスペランティスト等に就き講演せらる。近く同社友50名の爲に初歩講習を済美會館で開催し、來學期には學生聯盟よりも參加する豫定。又、學生聯盟發行の雑誌にエス語欄を設ける由。

ラ、フォルモソは色々の障碍で發行を延期してゐたが6月30日久し振りで第14號が發行せらる。

7月11日より7,8兩月に亘り毎金曜日午後7時より30分間 TFAK より安田勇吉氏擔當の許にエスペラント講座が開かる。

事務所を市内昭和町二丁目武上耕一氏方に移す。



Kunveno de Keio

Univ. adiaŭa al

S-ro K. Macumoto

慶應エス會松本清彦氏送別會。前列左より5人目松本氏、6人目園授教。

## 全國エスペラント會一覽(7) 累計 95

日本エス學會橫濱支部	橫濱市中區本町津久居屋ホテル内	水島久馬
朝鮮エス俱樂部	京城鐘路朝鮮基督教青年會館	白南奎
牟婁エス會	三重縣紀伊長島町紀北實賤女學校	小林留木
第一早高エス會	市外戸塚町源兵衛14阿部方	柳田英二
京大醫學部エス會 (京大エス會より獨立)	京都市中京區堺町通竹屋町下ル	風間恒弘
北越エス會	新潟市醫學町通1	久保義郎、渡邊正亥
濟州島エス會	朝鮮全南濟州島濟州本町	川崎義雄

【變更】 朝鮮エス研究會 京城府新橋洞 61 の 1 を 京城府昭格洞 16 に



## ★ エスぺラント講習會一覽 ★

開催エス會	種類	期 日	時 間	用 書	受講者	講 師
牟婁エス會	初	7月1日—7日	毎日2時間	—	—	小林、南
?	初	同上	火、金3時間	小坂講書	24	(渡邊正亥 久保義郎)
?	初	4月1日—5月30日	火、金2時間	初等讀本	30	宗近眞澄
?	中	6月1日→	同上	中等讀本	12	同上
二高エス會	論	5月19日→	月、水、金30分	Unua Legolibro	8	—
名高商エス會	初	6月1日→2週	—	希望社講書	15	河野英夫
”	中	7月3日→	—	カルロ	8	同上及桃澤
横濱支部	初	5月10日→6月8日	土、日	短期	20	福喜多、鈴木
”	中	—	土19時より	中等讀本	—	福喜多
梅光エス會 (下關 梅光女學院内)	初 中 高	5月5日→1年	月、木1時間	{小坂講書 中等讀本 Fund. Krest.}	13 凡て教員	野原休一
東北大エス會	初	5月6日→6月14日	火、木、土1時間	小坂講書	5	桑原利秀
東北慈恵院	初	5月11日→6月8日	日、2時間	同上	5	堀田幹雄
”	中	同上	同上	中等讀本	4	桑原利秀

## Kiel ni malsukcesis en nia movado

Internacia Teknika Kongreso, Kunitaro Takahashi.

Estimata legantaro eble memoras, ke kelkaj Esp. gazetoj enlandaj kaj eksterlandaj afable presigis jam en siaj someraj eldonoj nian alvokon, per kiu ni petis helpon al nia poresperanta movado en la Internacia Teknika Kongreso okazinta okt-novembron en Tokio.

Nia antaŭvido estis, ke ni povos renkonti almenaŭ kelke da samideanoj inter la partoprenantoj, kiuj aprobe subtenos niajn proponojn al la kongreso, tiom konvinkante la tutan kongresanaron, kiom povus organiziĝi ligo Esperanta de inĝenieroj tutmondaj por interŝanĝi ideojn aŭ por eldoni oficialan gazeton.

Sed he ve, ĉio estis sonĝo, tro bela kaj neefektivebla! Malgraŭ J E I klopode disdonis flugfolion propagandan ĉe la kongresejo, malgraŭ ni ĉiam rimarkeble verdas-teligis nian bruston, ni ne povis trovi eĉ unu samideanon, nek aŭdis nian karan lingvon parolata dum la kunsido... Plie, malgraŭ S-ro Edström, unu el la reprezentantoj de sveda registaro, kiu prezidis nian fakkunsidon,

montris al nia movado sian elkoran simpatian, ni deviĝis trovi nin en tre malfavora situacio koncerne propagandon, ĉar la tempo donita al ni estis preskaŭ neniigita de du antaŭirintoj, kies paroladoj prenis al si multe pli longan tempon ol antaŭviditaj.

“Venkito ne rankontas sian almliton”, diras nia proverbo, sed ni nun sentas nin respondecaj raporti iom kiel jene por danki al diverslandaj redaktoroj kaj ankaŭ legantoj, kiuj etendis al ni siajn influplenajn helpajn manojn:

1) Ke la petoskribon prezentitan al la kongreso subskribis jenaj:

D-ro J. Inoue, konsilanto de la kongreso kaj rektoro de Tohoku universitato,  
Prof. O. Mijagi de la sama universitato,  
Prof. G. Fita de Kioto universitato,  
Prof. B. Arakaŭa de Kiuŝu universitato,  
D-ro K. Yamamoto, marmilita inĝ., vic-admiralo, k. t. p.

2) Ke el la entute 792 traktatoj aŭ artikoloj akceptitaj de la kongreso nur du estis skribitaj Esperante.



## 會員の聲

### 英國刑務界とエス語

私は刑務界のこゝについて少し聞きたいことがあつて英國の Esperanto Association に次のやうな照會をしました但其の回答は要を得ませんでした。

La 27an de Dec.

Estimataj Sinjoroj:

Mi estas la instruisto (edukisto) en la malliberejo, Keiĵo, Koreujo, maljuna 54 jarojn, tre ĝoje skribi la leteron al vi.

Antaŭ kelkaj jaroj mi komencis lerni Esperanton, kaj hodiaŭ mi jam povis legi facilan libron en la lingvo, senmortare.

Nun mi ne dubas, ke Esperanto estas vere vivanta lingvo, belsona kaj taŭga por ĉiuj celoj.

Kaj mi ja tre volas havi la kriminalan oficiston en malliberejo, aŭ policiston, kiu farus korespondon kun mi reciproke en via lando.

Por tio, mi petas vin, ke vi bonvole sciigu al mi la adreson de la oficisto.

Senpacience atendente vian respondon,

Mi restas kun respekto,

Seiu Sogen.

それに對する回答は次のやうでした。

19 Janu, 1930.

Estimata Amiko!

Mi tre bedaŭras, ke mi ne scias la nomon de iu ajn alia instruisto aŭ oficisto en malliberejo, kiu estas Esperantisto kaj povus korespondi kun vi.

Mi ĝojas, ke vi lernas la lingvon, kaj mi gratulas vin, ke vi tiel bone skribas ĝin.

Kun kora saluto,

samideane via,

Meble Sekretario.

(京城孔德里 桑原星羽)

### 書籍店利用法

突然ながら書面を以てエスペラント普及宣傳の方法に關する愚見を御參考迄に御しらせ申ませう。

私の住んでゐる此の刈谷地方の現状を見渡しまするにエスペラントといふ名稱さへも知らずに居る者ばかりといつていゝ位でましてエスペラントとはどんなものかを多少でも知つてゐる者は皆無といつていゝ状態なんです。いかにエスペラントが價値あるものでもそのことを全く知らずに居てはやりかけようさしないのも尤もなことです。だから先づ何より先に一般の人々にエスペラントへ心向けさせる様にしなくてはなりません。即ち人々が學び始める迄の氣運を作るここがどうしても先決問題であります。それには出来るだけ度々エスペラントが人々の目にふれる機會を與へねばならぬと思ひます。その一方法として心安い書店の了解を得てその書棚の一部をかしてもらひそこへエスペラント書籍を列べて店先にはポスターを掲げて見てはどうかと私は日頃考へて居るのです。勿論當分は賣れないことを承知の上でやるのです。そこへ捧げられた本こそたしかに有意義な尊い犠牲と言へませう。

私は以前から色々普及宣傳方法を考へて居りますがこの方法にしてもそれ相當の費用がかかる今の處よゆうのない自分としてはいつも行きつまつてしまふのであります。いつもしみじみ“se mi estas riĉulo”と思ふこそですが致し方ありません。今の世の riĉuloj の心を此の方面に向かせたいものです。

(愛知縣 岡本義雄)

### 金五錢釀出

所感と希望。入會後數ヶ年間に於て吾人の本誌に對し氣付いて居る點を一言に約すれば日進月歩の編輯振である。其は別に吾人が具體的に述べなくとも年一年と後へ順次に本誌の形式、内容を比較すれば明瞭するのである。



百人百色であるから人間のする事は萬人に満足と與へるものを造り出すことは殆んど不可能である。故に大體の所を標準として行けば、それでヨイとすべきである。同一の木の葉でも其の多くの中で最大、最小は最も少くて中位のものが多いのは自然の則で吾人等も同様である。そこで中位の最多を目標とすればよいといふ事になるのである。しかもこれが専任者の手に成るのでなく、一人前の仕事をした餘暇否休憩時を捧げて眞に犠牲的獻身的のものであることを考へたならば如何にこの編輯振か上出来であるか々分かると思ふのである。特に今回以後は編輯當番交代といふのであるから益々よくなるであらうと囑目せらるゝのである。吾人は此の意味に於て常に感謝しつつ學會の發展と本誌の進運を祈つて居るものである。吾人と共鳴の士は多いと確信する。其所で吾人は會員の諸兄姉に御相談否願がある。其は毎年末に此等役員の方々に感謝の微意を表すべく各員から金五錢宛醸出して貧弱ながら慰勞會を開いて貰ふやうにしたいと思ふが如何？實に少額ではあるが全會員の心の力は充分役員各位に喜んで受入れて頂けると思ふ。就いては其の取まとめ方を東京在住の會員にお願いしたいと考へたが却つて不便が多いから寧ろ學會の大井先生に御迷惑でも便宜上お引受を願つて可然御取計ひ方の御承諾をお願いする。同感の士は直ちに賛成同先生宛郵券でよろしいから御送りをお頼みする。翌年の誌上に結果を發表して頂ければ幸甚。

それから會員の勧誘であるがどうも熱が足りない結果か、所謂馬を水邊迄は引張つて行くが水を飲まず段になると不成功に終る、といふ轍を踏むことが多いのを遺憾とする。此點に於て各地方團體次の三項の共同的努力即ち時の力人の力、金の力、の三犠牲を必要とする。吾人は此に對して目下考慮中である。會員各位の御援助を切望する。

(愛媛縣 二神眞敬)

## 宣傳用小新聞

宣傳用小新聞を作る事大賛成。

日本のローマ字社の

“Rômazi no Nippon.”

ローマ字ひろめ會の “Sakigake.”

カナモジカイの「カナノヒカリ」

“International Language” の “Esp. Student” 等、ならふべき例はいくつもあります。價は五錢以下にして “Rômzi no Nippon” の如く體裁のいゝものを出していたゞきたく思ひます。

(仙臺 今仁)

## 子供の名前をエス語で

大阪の相坂信氏わ自分の子供に Esperanto で名をつけた(區役所受付済み)。

1. (男) マルテロ (=Martelo)
2. (女) リリオ (=Lilio)
3. (男) レオノ (=Leono) (川崎)

## 編輯後記

今月號は城戸崎君擔當で原稿は皆同君の集められたものであるが、少し早く歸省された爲、その後を引受ける事になった。

金澤の大會も愈々旬日後に迫つてゐる。もつと早く 20 日頃に出し度い豫定であつたが、涉らず、漸く原稿が纏つて大會の間に合せることが出来た。執筆の方々には無理な催促をして忙しい目に遇はせたが、之も役目の上、御容赦に預り度い。同時に御多忙中にも拘らず原稿を間に合せて下さつた事に對し茲に厚く御禮申し上げます。

内地報道は城戸崎君の計劃では短縮して 4 頁にする積りらしかつたが、早く歸へられたので、以前の方法をそのまゝ踏襲した。初等中等講座は松本君の都合によつて今月は休載した。

細田君の Nekrologo は生前の寫眞を載せる積りでしたが間に合はないので遺憾ながら入れられませんでした。

では皆様、8 月 2 日には金澤でお目にかゝりませう。

(伊藤)



◀最新刊▶

醫學 에스ペランチスト必携の書出づ

服部・緒方・刈米三藥學博士・西醫學博士序

ヘルメーサ・ロンデート(岡本好次・波多野正信・福富義雄・三雲隆三郎・山田武一)編纂

日本藥局方

エス・羅・日 藥品名彙  
獨・英・佛

三五版二百數十頁 クロス綴美装

定價 1 圓 50 錢 送料 6 錢

本書は第四改正日藥局方に收載せられてゐるすべての藥品を網羅しそのエスペラント、ラテン語、日本語、ドイツ語、英語、フランス語の六ヶ國語譯を對照排列し一目瞭然たらしめたものでしかもその編纂には新機軸を出し其主要部たるエス語を基準とした六ヶ國語の對譯の部の外に羅エス、日エス、獨エス、英エス、佛エスの二國語譯對照の部がそえてあるので或藥品の一ヶ國語さへ知つてをればこの兩部の活用によつて立どころに他の五ヶ國語譯が索出できる。エス語を知らぬ人でも活用できること言ふ迄もない事である。猶卷末に簡単なエス語の文法をそえてをいた。

1930 年スピード時代にふさはしい

エスペラント書き處方箋は本書より

新藥・新製劑の命名はエスペラントで

特に醫學藥學エスペランチスト諸君へ：—

本書の出現が特に我々同志にとつて喜びに堪えない所のものは第一に本書の編纂者が我國エス界の熱心なる闘士たるヘルメーサ・ロンデートの五君の手になつたものであること第二にかゝるエス書が南江堂の如き一流書店から出版された事第三に本書はエス語を知らぬ人でも自由に使用できるがしかもエス語を基準とした故すべて索出の際は常にエス語を通してなすべき様編纂されてゐるからエス語を知らぬ人も本書の使用によりしらすしらすの中にエス語に親しむ様になりエス語の宣傳上からいつて恰好の著作である事である。だから我々同志は一致協力して本書をエス語を知らぬ知人に推奨することに努力せねばならないことを確信しここに本書の出現を祝し同志諸彦の御援助を熱望するものである。

長崎醫大附屬藥學專門部教授 植田高三

發行所

東京市本郷區春木町 3 丁目

南江堂書店

取次所

東京市牛込區新小川町 3 の 15 (振替口座東京 11325 番)

財團法人日本エスペラント學會



## 👉 學會取次洋書目錄 👈

★洋書は如何なる場合でも前金注文でなければお送り致しません★

◀七月より洋書の一部値下斷行を致しました▶

但し出版元にて値上の爲元のまゝ或は値上げになつたのもあります。

—— ○印値下、●印値上 ——

### ~~~~~【新 着 書】~~~~~

★Naciismo Lanti 著..... 0.65 (4)  
★Lerna Esperanta Kresomatio Šabarin 著  
..... 0.50 (2)

定買價(送料税)  
★Revolucio en la Lingvoscienco Andreev  
著..... 0.35 (2)

### —— 特にお奨めする好適讀物 ——

★**Bulgara Antologio.** Ivan Krestanoff 編。ブルガリヤ作家の寫眞、小傳記を付し、詩、散文の珠玉を集めたもの、餘り世に紹介されぬ小國文藝をこの書によつて充分知悉し得る。文學愛好家の是非讀むべきものである。絶版物。.....1.50 (6)

★**Bulgara Lando kaj Popolo.** Krestanoff 著。ブルガリヤの地理、歴史、風俗、國語等に亘り詳細に述べた書。長く土耳其の支配下にあつたブルガリヤが遂に祖國を取戻し得た歴史を語る。地圖入、絶版物。.....1.20 (4)

★**El la Proksima Oriento.** Krestanoff 著。餘り世に知られない近東の小國民の歴史、文化を説明したもの、ウクライナ、リトヴィヤ、エストニヤ、フィンランド等を含む。絶版物。.....0.90 (2)

○**La Rompantoj** Frederiko Pujula-Valjes 原作の獨白劇五篇を集めたもの。デユネーヴに於る第二回萬國大會に於て著者自ら演じたものを含む。輕快にして滑稽なる好讀物。.....0.35 (4)

★**La Lasta** ボーランド文壇の雄 Reymont の著、Kabe 譯。漁に出たまゝ暴風雨に遇つて歸へらない漁船を待つ家に残つた家族の不安の状態を描いたもの。.....0.15 (2)

★**Fatala Ŝuldo.** 新進作家 Lionel Dalsace 著。交霊術に巧みな過去を透視する婦人が説く因果律を眼前に現す面白い小説。

Teozofio に興味を有する人の好個の讀物。..... 1.10 (10)

★**La Paĝo de l' Reĝino.** Praha に於ける第13回萬國エス大會の Postkongreso に Budapest に於て演ぜられた喜劇。ある詩人が學士院に推薦せられるべき戯曲に没頭してゐる中に眠り込んで戯曲の表題の夢を見る、又家主の銀行家の騒ぎが機込まれる。譯は Kalosçay.....0.25 (2)

★**Sendangereco de Francujo.** 佛蘭西前大臣 Honorat 氏著、前伊太利首相 Nitti 氏の Danĝero de Eŭropo には大戰の根源及戰後の不安に對して佛蘭西が最も大なる責任を持つ事を暗示したのでこれに對する反駁の爲に著したもの、本書は實に佛伊兩國の大政治家同志の大論戰を示すものである。しかも逸早く Nitti の原書をエス譯して發表したのに對抗してこの機を逸せず佛國の同志が政府を動かして出版したもの。...0.50 (4)

○**Verdkata Testamento.** 原作詩人 Raymond Schwartz 著の諧謔詩集。一例を挙げれば Heine の詩 Zamenhof 譯の En Songo (Fund. Krestomatio にあり)をもちつて

En songo, fi! cimon mi vidis  
Kun vangoj malsekaj de sango,  
Sub mia ĉemizo ĝi sidis  
Pikante min per sia lango.

何度讀んでも面白い。.....0.90 (4)

○**Prozo Ridetanta.** Raymond Sch-



wartz 著 散文集。Verdkata Testamento に劣らず滑稽諧謔に充ちてゐる。棄場所に困つた古い煙突が到頭警察まで持込まれる騒等 bonhumorulo には好適のもの。……1.25 (6)

○La Vangfrapo. Abraham Dreyjus 著喜劇一幕物。二人の男が喧嘩をして仲裁人が小使である。二人の悪口雑言は仲々終らな

いが最後に妥協して握手する。……0.25 (2)

★Tri Angloj Alilande. 國際中央委員會長 John Merchant 氏原作小説三人の英國人が外國へ旅行するが、失敗續出であるがその中の一人がエスペランティストでそのお蔭でその度毎に助かるといふエスペラント宣傳小説である。……0.55 (2)

### ~~~~~ ザメンホフ博士著書 ~~~~~

★Aldono al la Dua Libro.....0.25 (2)  
○Rabeno de Baĥaraĥ .....0.45 (4)  
★La Rabistoj .....0.80 (4)  
○La Revizoro.....0.70 (4)  
○Ifigenio en Taŭrido.....0.70 (4)  
★La Batalo de l' Vivo.....0.55 (4)  
○Fundamento de Esperanto.....0.55 (4)  
○Hamleto... .....0.55 (4)

★Andersen, Fabeloj 第一第二卷各...0.80 (4)  
★Marta .....1.30 (6)  
★Rakontoj el Biblio .....0.30 (2)  
○Lingvaj Respondoj.....0.55 (4)  
★Proverbaro Esperanta.....0.70 (4)  
○Fundamenta Krestomatio .....1.30 (8)  
★Originala Verkaro .....7.50 内地(27)  
植民地(55)

### ~~~~~ 原 作 文 藝 ~~~~~

★Saltego trans Jarmiloj .....2.85 (8)  
★Diablidoj .....0.35 (2)  
★Bukedo I, II. 二巻で .....0.60 (4)  
★Prologo 詩集 .....0.40 (2)  
★La Landoj de Fantazio 小説…上製 2.65(12)  
★Krioj de l' Koro 詩集.....0.15 (2)  
★Lilio, Sinotte 嬢作小説.....1.35 (6)

★Vi, Sola, Esperanto.....0.18 (2)  
★Modernaj Robinzonoj .....0.85 (2)  
★Karlo. Privat 著。.....0.25 (2)  
★Abismoj 小説 .....1.55 (4)  
★Laŭroj 名作集.....0.80 (4)  
★Du Rakontoj 小説二編 .....0.30 (2)  
★Stranga Heredaĵo 小説 .....2.85 (8)  
○Hundo Parolanta 喜劇 .....0.20 (2)

### ~~~~~ 翻 譯 文 藝 ~~~~~

○Advokato Patelin 劇.....0.25 (2)  
○Tradukoj el Francaj Poezioj.....0.20 (2)  
○Fundo de l' Mizero .....0.25 (2)  
○Faraono (三冊).....2.70 (16)  
★Verdaj Fajreroj .....0.40 (2)  
★Reĝo Lear 沙翁劇 .....1.45 (6)  
★El la Landoj de Ruinoj .....0.12 (2)  
★Kaatje, Spaak 作の劇.....0.80 (6)  
★Sokrato 劇.....0.65 (6)  
★Karavano, Hauff 作小説.....0.55 (2)  
★Cavalleria Rusticana 劇 .....0.35 (2)  
★Morto de Blanjo .....0.35 (2)  
★Kandid. Voltaire 著。.....0.95 (4)  
★Karto Mistera. Payson 譯。.....0.30 (2)

★Ok Noveloj 小説集 .....0.55 (4)  
★Elekt. Humoraj Rakontoj .....0.20 (2)  
★Aelita, A. Tolstoj 小説 .....1.70 (6)  
★Kantistino, Hauff 作.....0.40 (2)  
★Manon Lescaut .....1.10 (4)  
★Ruĝa Floro.....0.10 (2)  
★El la Lando de Blanka Monto.....0.55 (2)  
★Marjo 小品.....0.45 (2)  
★En Okcidento nenio Nova Remarque 作  
.....並製 2.50 (8)  
.....上製 3.50 (10)  
★Vendetta 小説 .....0.55 (4)  
★Palaco de Danĝero 小説 .....3.10 (6)  
★Malŝparulo 劇 .....1.05 (4)



~~~~~ **【 學 習 用 書 】** ~~~~~

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>★Oficiala Klasika Libro .....0.40 (2)</p> <p>★Bennemann エス獨辭典.....2.10 (4)</p> <p>★Bennemann 獨エス辭典.....4.35 (8)</p> <p>★Christaller: Esperanto .....0.55 (4)</p> <p>★Esperanto Teacher .....0.55 (4)</p> <p>★Millidge エス英辭典 .....4.40 (6)</p> <p>★Rhodes 英エス辭典 .....2.10(12)</p> | <p>★Cours Méthodique 三冊で.....1.20 (8)</p> <p>○Petit Cours Primaire .....0.30 (4)</p> <p>●Maupin エス佛辭典 .....0.90 (4)</p> <p>●Maupin 佛エス辭典 .....1.80 (8)</p> <p>○Vortaro de Esp., Kabe .....0.90 (8)</p> <p>●Etimologia Leksikono.....2.00 (6)</p> <p>★Kompleta Gramatiko .....2.10 (4)</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

~~~~~ **科 學 社 會 宗 教 其 他** ~~~~~

- |   |   |
|---|---|
| <p>★Laborĉarto 勞働大憲章 .....0.12 (2)</p> <p>★Kormalsanoj 心臟病.....0.40 (2)</p> <p>★Evoluo de Telefonio .....0.55 (2)</p> <p>○Franca Gramatiko.....0.30 (4)</p> <p>★Evangelio de Horo .....0.08 (2)</p> <p>○Inicado Matematika .....0.35 (4)</p> <p>○Elementa Fotografa Optiko .....0.30 (2)</p> <p>★Varmkulturo 熱療法.....0.45 (4)</p> | <p>○Monadologio de Leibniz .....0.10 (2)</p> <p>★Teknika Vortareto 教育、心理學...0.20 (2)</p> <p>●Internacia Farmacio .....2.00 (18)</p> <p>★Fundamento de Kvakerismo.....0.95 (6)</p> <p>★Internacia Kantaro Tekstaro .....0.80 (2)</p> <p>★ „ „ 音符付 .....2.30 (6)</p> <p>★Internacia Radio Manual.....0.15 (2)</p> <p>★International Language.....0.25 (2)</p> |
|---|---|

★Internacia Mondliteraturo 世界代表文藝叢書 .....各號 0.70 (4)、倍號 1.40 (6)

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <p>1. Hermano kaj Doroteo</p> <p>2. Legendoj, Niemojevski</p> <p>3. Elekt. Noveloj, Turgenev</p> <p>4. La Nigra Galero, Raabe</p> <p>5. Camera Obscura</p> <p>6. Skizlibro, W. Irving</p> <p>7. Petro Schlemiel</p> | <p>8. Nuntempaj Rakontoj</p> <p>9. Hebreaaj Rakontoj</p> <p>11-12. Deklaracio 有島</p> <p>13. Ses Noveloj, Allan Poe</p> <p>14. La Firmao, Balzac</p> <p>15. Orientaj Fabeloj</p> <p>16. Noveloj, Sienkiewicz</p> | <p>17. Insulo de Feliĉuloj</p> <p>18. Barbaraj rakontoj</p> <p>19. Ano de l' Ringludo</p> <p>20. Servokapabla</p> <p>21. Nobela Peko</p> |
|---|---|--|

★EBI 叢書.....各號 0.18 (2), 倍號は 0.36 (2), 三倍號 0.54 (2)

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p>Rusaj Rakontoj Sibirjak</p> <p>Don Kihoto Servantes</p> <p>Amoro kaj Psiĥe, Apulejus</p> <p>Bulgaraj Rakontoj, Vazov</p> <p>Reaperantoj, Ibsen (倍號)</p> <p>Komerca Korespondo 商業文</p> | <p>Konsiloj pri Higieno</p> <p>Reĝo de Ora Rivero, Ruskin</p> <p>Lasta Usonano, Mitchel</p> <p>Hungaraj Rakontoj</p> <p>Nordgermanaaj Rakontoj</p> <p>Instituto Milner 戀愛學校</p> | <p>Noveloj el Nigra Arbaro</p> <p>Intervidiĝo</p> <p>La Patriino, Zahn</p> <p>Elzasaj Rakontoj</p> <p>Sub la Neĝo (三倍號)</p> <p>Amkonkurantoj, Schmidt</p> |
|--|---|---|

★Ilustrita Biblioteko .....各輯 1.10 (4)

第1輯 東洋物語: Devi Angreni; Ribelemaj Virinoj; Sakuntala; Mil kaj Unu Noktoj.

第II輯 海の物語: La Ŝipĉarpentisto; Navigado estas necesa; Gudrun; La Hantataj Ŝipoj.

★Tutmonda Biblioteko 世界名著叢書第I輯  
六冊、第II輯五冊 .....各輯 2.00 (8)

I: Mateo Falcone; Malgranda Johano; Memdisciplino; Norda Vento 等。

II: Grekaj Papirusoj; Kapitanfilino; Homa Lingvo; Bonhumoraj Rakontoj 等。

**注 意: コノ他ハスベテ定價前號通リデス。**



發賣第五年を迎へたるを祝し

# 『新撰エス和辭典』 の値下斷行

大正15年7月「新撰エス和辭典」を發賣してこゝに滿四ヶ年を経過した。その間多數の同志諸兄の絶大なる御援助と御支持によつて既に二十數版を重ねる事になりました。

こゝに第五年目を迎へた事を祝し併せてこれ迄の厚い御恩誼に報ひ且つはエス界に功獻すべく特にこの際定價を次の如く奉仕的の廉價に引下げる事に致しました。

就いては今後也大いに御利用の程を御願ひ致します。

**改正定價 60 錢 送料 2 錢**

▶ 近々革製の特製版を發賣 ◀ (特價 80 錢)  
(送料 2 錢)

## エスペ란トの鍵

★久しく出づべくして出なかつた SLOSILO は近々出版の運びになります。大きな活字で組んだものを縮寫したものですから印刷が鮮明でしかも内容が一頁に非常に澤山入る事になります。

財團  
法人

日本エスペラント學會出版部

振替口座  
東京 11325



本邦で出版の **學會取次書其他目錄** (注文は前)(學會の振替口座は) (金に限る)(東京 11325 番)

| 價目 送料                        | 價目 送料                          |
|------------------------------|--------------------------------|
| ★ザ博士演説集(カニヤ版).....0.80 .4    | ★新魔王(エス文).....0.30 .2          |
| ★夜の空の星の如く(同上和譯).....0.80 .6  | ★悪夢(エス文).....0.20 .2           |
| ★ザ博士演説集(佐々城氏編).....0.30 .2   | ★大成和エス辭典.....4.80 .18          |
| ★我國における外國語問題とエス語.....0.60 .4 | ★模範エス會話.....1.20 .4            |
| ★心の片隅.....0.50 .2            | ★寡婦マルタ(改造文庫).....0.30 .4       |
| ★詩集花束.....0.80 .4            | ★カルロ(四方堂版).....0.20 .2         |
| ★緑の星に憧れて.....1.20 .8         | ★エス・羅・日・獨・英・佛・藥品名彙.....1.50 .6 |

◆日本語エスペラント小辭典(三高)[普及版]((値下)).....0.50 .2

◆模範エスペラント獨習(秋田、小坂共著)[普及版].....1.00 .8

◆日・エス・支・英 會話と辭書.....[普及版] 0.65 .6 [上製] 0.85 .6

◆エスペラント絹ハンケチ(高級刺繡).....緑星光下の地球、旭昇る富士山の二種あり。  
(男女別申出の事) 各1枚75錢送料各2錢

★エスペラント 會話と演説 蓄音機レコード出來 價 1.20 圓  
送料内地 40 錢  
(内地外は 65 錢)

★エスペラント 對譯詳註叢書 **5. 愛あるところ神あり** (特價 1.50 錢)  
(送料 0.08 錢)

[附録] エスペラント研究用書解題

——【金澤大會當日發賣】——

トルストイの原作を Sidlovskaja 夫人がエス譯したものに川崎直一君が對譯を附してそれに徹底的に詳細な註釋をほどこしたもので三五版で(しかも六號活字で組んだ部分が多く)三百數十頁の大部となった。

かゝる尨大にして研究的な對譯書は日本はおろか世界にも二つとない。又エス界のみならず英獨佛語學界においてもその類書はない。エスペラントを研究するものは何人も本書一冊を座右にせざるべからざるの良書である。

東京牛込財團 日本エスペラント學會 振替口座  
新小川町法人 東京 11325 番

..... 文庫係よりお願い .....  
.....

文庫整理の都合がありますから圖書を借出された方は

—— 至急御返戻下さい ——

レヴオ六月號[科學特輯號]特別に一部十錢(送料共)の割で希望者に頒つ



財團 法人 日本エスペラント學會發行圖書其他

|                | 間                      | 送料       |
|----------------|------------------------|----------|
| エスペラント捷徑       | 最新最良の獨習書……………          | 價 1.00 6 |
| エスペラント講座       | 外國語を知らぬ人の獨習講義録……………    | 0.50 4   |
| 新撰エス和辭典        | 語數一萬五千餘、譯語正確、索出至便…………… | 0.60 2   |
| エスペラント講習用書     | 文法教科書と讀本とをかね……………      | 0.35 2   |
| エスペラント短期講習書    | 大きな活字で要領よく編輯した……………    | 0.20 2   |
| エスペラント初等讀本     | 挿繪入程度低く小中學生にも適す……………   | 0.30 2   |
| エスペラント中等讀本     | 興味深き讀み物數十篇を収む……………     | 0.30 2   |
| エスペラント發音研究     | エス語發音上の疑問を氷解す……………     | 0.30 4   |
| 點字エスペラント文法と小辭典 | 盲人用獨習書兼字引……………         | 1.00 6   |
| エスペラントやさしい讀み物  | 笑話廿二篇を對譯詳註し興味横溢……………   | 0.10 2   |
| 愛の人ザメンホフ       | エス語創案者ザ博士の傳記……………      | 0.80 6   |
| リングヴィ・レスポンドイ   | ザ博士の言語上の解答を蒐む……………     | 0.50 4   |

~~~~~ エスペラント對譯詳註叢書 ~~~~~

|              |                        |        |
|--------------|------------------------|--------|
| 1. マテオ・フアルコネ | 「カルメン」の作者メリメの名篇……………   | 0.35 2 |
| 2. ハイネ詩集     | 情熱詩人ハイネの詩數十篇……………      | 0.40 2 |
| 3. 魔法使       | ザイデルの爐邊物語中の一篇……………     | 0.40 2 |
| 4. 代理通譯      | 一幕物抱腹絶倒さす程の大滑稽劇……………   | 0.40 2 |
| 5. 愛ある處神あり   | 杜翁の短篇。附録「エス學習書籍解題」印刷中  |        |
| 6. レイモント短篇集  | 「農民」で有名な波蘭文豪レ氏の短篇…………… | 0.40 2 |

~~~~~ エスペラント書き日本叢書 ~~~~~

|              |                    |        |
|--------------|--------------------|--------|
| 1. 骸骨の舞跳     | 秋田雨雀戯曲三篇……………      | 0.40 2 |
| 2. 倫敦塔       | 夏目漱石原作 西博士エス譯…………… | 0.15 2 |
| 3. 惜しみなく愛は奪ふ | 有島武郎原作 東宮氏エス譯…………… | 植字中    |

|             |  |                  |
|-------------|--|------------------|
| エスペラント單語カード | 七百二十語に一々用例を示す……………   | 1.70 12          |
| エスペラント文例集   | カードと同一内容の本……………  | 1.70 8           |
| エス演說會話レコード  | 小坂氏吹込兩面……………   | 1.20 40 (内地外 65) |
| エスペラント便箋    | 正百枚一冊……………   | 0.20 4           |
| エスペラント封緘紙   | 八十枚入一袋……………  | 0.20 2           |
| エスペラント手拭    | 三越特製上等……………  | 0.20 2           |
| 日本風景風俗エハガキ  | 四枚一組三色刷エス説明入……………  | 0.10 2           |
| 緑星章         | <div> <div> 甲種(安全ピン止) 乙種(背廣用) 各 (送料共)…………… </div> <div> 丙種(安全ピン止特製) 丁種(背廣用特製) 各…………… </div> </div> | 0.30 -<br>0.50 6 |
| 緑星カウスボタン    | (箱入一組)……………  | 1.20 6           |
| 緑星旗         | 紙製緑地に白く「エスペラント」と抜く。十枚(郵税共)……………  | 0.15 -           |

|        |            |  |
|--------|------------|--|
| 【無代進呈】 | 『宣傳の葉』     | <div> 百枚以下無料(但送料卅枚毎に四錢) </div> <div> 百枚以上百枚毎に實費送料共六十五錢 </div>  |
|        | 『宣傳のチラシビラ』 | <div> 三百枚以下無料(但送料百枚毎に二錢) </div> <div> 三百枚以上は百枚毎に實費送料共十錢 </div> |

東京市牛込區  
新小川町3の15

財團 法人 日本エスペラント學會

振替口座番號  
東京 11325 番



La Revuo Orienta—Monata Organo de Japana Esperanto-Instituto,  
Ŝin'ogaŭamaĉi III-15, Uŝigome, TOKIO, Japanujo; abono internacia 7 svis. frankoj.

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財団法人 日本エスペラント學會

【東京市牛込區新小川町三の十五】【振替口座東京 11325 番】

- 目的 エスペラントの普及、研究、實用
- 事業 (a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表  
(b) 雜誌及圖書の刊行等  
(c) 講演會、講習會の開催及後援  
(d) 其他本會の目的を達成するに必要な認むる事業
- 會費 (a) 普通維持員 年額 2 圓 40 錢 (b) 正維持員 年額 3 圓  
(c) 贊助維持員 年額 5 圓 (d) 特別維持員 年額 10 圓以上  
(e) 終身維持員 一時金 100 圓以上
- 入會手續 住所、職業、姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい。(振替送金最も安全)
- 維持員の特典 1. 毎月研究雜誌“La Revuo Orienta”の配布をうく  
2. 出版圖書の割引をうくることあり  
3. 語學上の質疑其他一般の問合の返事をうく  
4. 宣傳の「葉」その他宣傳材料を無料でうくることを得

詳しいことは直接お問合せ下さい

役員名簿 (五十音順)

|     |        |         |    |      |         |     |         |
|-----|--------|---------|----|------|---------|-----|---------|
| 理事長 | 高層氣象臺長 | 大石和三郎   | 理事 | 文 博  | 高楠順次郎   | 理事  | 大 井 學   |
| 理事  |        | 秋 田 雨 雀 | 同  | 東部部長 | 土 岐 善 磨 | 同   | 三 石 五 六 |
| 同   |        | 上 野 孝 男 | 同  | 醫 博  | 西 成 甫   | 監 事 | 農學校長    |
| 同   | 女大教授   | 河 崎 な つ | 同  |      | 美野田琢磨   | 同   | 法 學 士   |
| 同   | 中大教授   | 川原次吉郎   | 同  | 醫 博  | 望月周三郎   | 顧問  | 法博男爵    |
| 同   | 文 博    | 黒 板 勝 美 | 同  | 東部顧問 | 柳 田 國 男 | 同   | 子 爵     |
| 同   | 専大教授   | 小林鐵太郎   | 同  | 鐵道技師 | 小 坂 狷 二 |     |         |

本誌購讀料 (郵税別)

|     |        |                  |
|-----|--------|------------------|
| 一 部 | 圓 0.20 | 學會維持員には<br>無代頒布す |
| 半年分 | 圓 1.20 |                  |
| 一年分 | 圓 2.40 |                  |

本會振替 (一般) 東京 11325 番  
會計用 (長野) 3283 番  
基本金專用 (東京) 32089 番

昭和五年七月二十五日印刷

昭和五年八月一日發行

編輯兼  
發行人

印刷人

發行所

東京市牛込區新小川町三ノ一五

大 井 學

東京市神田區三崎町三ノ一四六

高 見 澤 保 芳

(一 國 印 刷 所)

東京市牛込區新小川町三ノ一五

財団法人 日本エスペラント學會

昭和五年八月一日發行 (毎月一回一日發行)  
エスペラント研究雜誌「ラ・レヴ・オリエンタ」第十一卷第八號

定價貳拾錢 (送料貳錢)